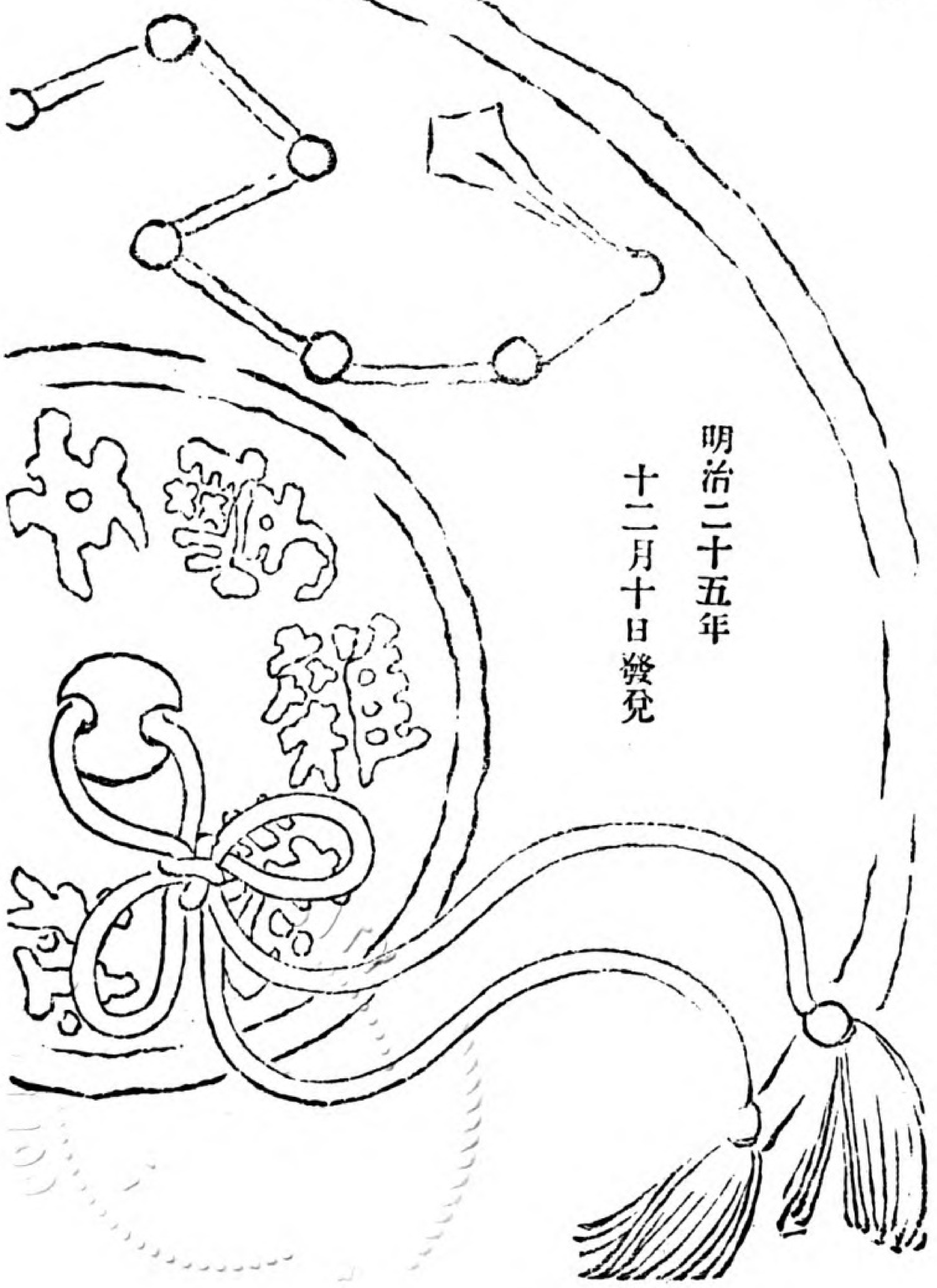
Dec 1892
no. 333-2

女學雜誌

第三百三拾參號

乙の巻



明治二十五年
十二月十日發兌

注意

●社說　宣教師派女學校に一策を獻ず(完結)

●雜錄　婚姻の式のはなし(山下石翁)○今昔ものがたり(お万の方の機轉。節儉と吝嗇。阿部忠秋の慈心。秀吉の心掛。坂倉重矩の注意。女のたしなみ。利勝の教誨)

●家政　内治の辨○親戚の會合○家内重寶錄○新工夫シャツ、ヅボン下たち方○茶話會(賢不肖の識別。外形と心裏。諺歌。障子紙。銀箔を急に鎖さす法。冬日花瓶の水凍らぬ法。櫛に垢のたまらぬ法)○育兒(哺乳の定則)

●兒藍　吾宿の花(若松しづ子)

●摘要　聾啞結婚○若手女記者○婚姻の取結

●時事　高知の怪報○看護術○快よき知らせ○種痘規則改正

●史傳　フランシス、ウイラードの傳

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 333. DECEMBER 10th 1892.

EDITORIAL:—To the Mission Girls' Schools in Japan (concluded).

MISCELLANEOUS:—Marriage Ceremony. Yesterday and To-day.

THE HOUSEHOLD:—An Orderly Home. Meeting of Relations. The Household Manual. A New Style Undergarments. Table talk. How to Bring up Children.

CHILDREN'S COLUMN:—The Flower of the Family. Marrying of the Mutes. Young Editresses. Marriage Law.

CURRENT NEWS:—

BIOGRAPHY:—Miss Francis Willard.

CONCERNING WOMAN:—

本號（第三百三拾三號）目次

●社説　宣教師派女學校に一策を獻ず（完結）

●雜錄　婚姻の式のはなし（山下石翁）○今昔ものがたり（お万の方の機轉。節儉と吝。阿部忠秋の慈心。秀吉の心掛。板倉重矩の注意。女のたしなみ。利勝の教誨）

●家政　内治の辨 ○親戚の會合 ○家内重寶錄○新工夫シヤツ、ヅボン下たち方○茶話會（賢不肖の識別。外形と心裏。諺歟。障子紙。銀箔を急に錆さす法。冬日花瓶の水凍らぬ法。櫛に垢のたまらぬ法）○育兒（哺乳の定則）

●兒籃　吾宿の花（若松しづ子）

●摘要　聾啞結婚○若手女記者○婚姻の取締

●時事　高知の怪報 ○看護術 ○快よき知らせ○種痘規則改正

●史傳　フランセス、ウイラードの傳

●女報

前週（第三百卅三號）白表

○社説　青年一揆の張本人○道話空漠々たりや ○第四議會 ○河野文部大臣○土佐傳道

○批評　大久保甲東○日本外史と讀史餘論○河村瑞賢○地震家屋○日本建築構造改良法○罪と罰○忍耐の秘訣○第五地理學講議○大西文學士香川景樹翁歌論に對する批評○武道の發源

○摘要　修身書採定の標準○支店分家出張所○北海道改革○万國赤十字第五集會報告略○自由黨の海軍擴張論○酒精輸入增加

○雜錄　○福澤諭吉氏の道法論○現内閣と後藤某

入と國○改革者傳道者○日本改革○眞正の謙遜○義の人愛の人○哀苦の新生○あきらめ○神に對する節操○日本の諺と呂蒙の言○尊敬心○偉人と慕心○人物上の理想○信仰の偉人モーセ○純潔の愛

○時事　伊藤伯傷つく○此老翁可憐○國民政社○新大學惣長○漁夫の利○文部省改革○非職郡長自殺○敕任布衣○攻擊と設計

○大日本圖書會社の利益○書籍製造的學者○毎日新聞の古今佳話

○片々

前々週（第三百卅二號）赤表

○社説　宣教師派女學校に一策を獻ず（下）。

○家政　嫁と姑（ふみ子）○家内重寶錄（同）○黄金の砂二つ三つ（女護嶋兒集）○乳母の撰擇法（上）ふみ子 ○母公へひとこと（牧の童）。

○雜錄　今昔もの語り（上手の覺悟 ○藩師の識量○近きを捨てゝ遠きを學ぶの弊 ○婦人の撰擧權問題。

○摘要　烟草は出火原因の一 ○小野のお通 ○女子教育と裁縫科○宗教と女學校。

○理學　習慣と用不用との力○身體の變化が互に相關する事○遺傳○淘汰の法。

○文藝　バイロン卿の曼弗列度を論ず（上）○和歌數首（東京案山子週査社中）。

○批評　婦人立志篇の序 ○前田正名君、亡女に告ぐる文○女子國文○なさめ草

○時事　孤女學院 ○湘煙女史

○女報

○孤兒之友

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第三百卅三號　明治二十五年十二月十日發兌

社說

宣教師派女學校に一策を献ず（完結）

宣教師派女學校が固有する諸々の事情斯の如し。能く此等の事情を斟酌し、八方の故障に觸れずして、其餘地に綽々たる運動を試ろみ、以て此派女學校の特色を大ひに發揮するの工夫如何にと問はば、無論、左の一策を執るの外ある可らずと答えん。古しへ、孔明が備えたる八門の陣立には、撃て出づ可き生門唯一つなりしと言ひ傳ふ。蓋し、此派女學校が全力を奮ふ可き方面は、亦た恐らくは唯一つなる可し。

所云る、唯一つとは、何事ぞと言ふに、他なし、

宣教師派女學校は、高等教育、普通教育の二つを兼ね施こし。高等教育には英語を多く用ひ、外國教師專ぱら教授し。普通教育には、殆んど邦語邦文のみにて教授し、英語は、只其一科として極めて僅かに用ひ、而して其監督を日本人の教頭に委托する事、

即はち是れ也。

此の仕組より生ずる必然の結果、及び利害、左の如し、

普通教育部は、邦語邦文を重もに用ゆるが故に、前述する如く日本人の教頭を定め、之に全權を委托せざる可らず。此部に對しては、外國教師が働らき得る區域、太はだ狹まかる可し。蓋し、少數時間の英語の教授の外は、他に之と云ひて定めて施こすべき程の事あらざるべしと雖も、道德上、宗教上の感化を與ふるが爲には、必ずしも不足なりと言ふ可らず。

而して、日本人の教頭が、能く時情に順應し、當世の必要を參酌して、巧みに普通學科程を組織せば、入門するもの太はだ多かる可しと思はる。尋常の私立學校ほどに貧しからず、今の官立學校ほどに變遷せず、優に資本を備えて、而して時世の必要に應ずる學科を十分に教授し、而も、其教授法尤とも信切なりとあらんには、玆に入門する人の多からんこと、當然なり。故に、此派の女學校に於て、かゝる仕組にて普通科を設け、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

今の世の需要に應じなば、其繁榮せんこと、疑がひある可らず。吾黨は、目下の情勢を明察し、斷乎たる責任を負ふて、此の確信を告白するもの也。但し、適當せる日本人を撰び、之を教頭として、之に全權を委托するの一事を忘却す可らず。もし此一事を欠き、西洋人例の如く親から支配せんとし、支配する耳ならず、外國語をも親から教授せんとするとなどあらば、其成効必らずや覺束なし。

高等教育部には、入門書生の數、言ふ迄もなく少なかる可し。左れど、普通教育部に於て、入門の書生大ひに增加すべきが故に、一校全躰の上より算する時は、書生の數、必らずや今よりは增加すべし。而して、西洋教師傳道方便の區域も、亦擴張せりと云ふ可し。

惟ふに、上來說述せる一策は、此派女學校の病所短所を甘まく覆ふて、其長所美所を大ひに發揮せしむるの方法なり。斯してこそ、外國教師の能力も十分に使用することを得べく、生徒の數を多くせんとの希望も滿足することを得べく、日本教師の技倆を十分に伸さしめて而も西洋人其上に主權を保存することも得べく、今の如く何れにもつかずして何れにも十分なる教育を施こさざるの弊を免るゝことを得べく、目下切迫せる日本女子教育の必要に應じて尤とも心切なる尤とも十分なる普通教育を施こすことを得べく、差當り殆んど供給する所ろなき日本の女子高等教育に對して其需めに應ずることを得べけれ。此派女學校一たび奮ひて、幸ひに此一策を執らば、日ならずして一擧に此のもろ〳〵の利益を擧ぐることを得べし。

夫れ、此派女學校が將來に摘み得べき花は蓋し此のみ。其他は、枯れたる葉のみ、刺ある枝のみ。然るに、注意此に到らず、自今以后尙依然として久しく現在の儘にてあらんには、此派女學校は、遠からずして自滅すべし。自滅せざるも、滅すると同樣の非運に出で會ふ可し。

試みに、現に此派女學校に關係せる主なる日本人の教育者に聞け。今の儘にて安心すと云ふもの、殆ど一人もあるまじ。其安心せる族は、大抵無我無宙のなまけもの也。苟くも多少の見識を備え、幾分の慨氣を懷かんほどの者は、其校現在の狀況に不平勃々たらざる者、殆ど絕無なりと云も可なり。而して、かゝる校より卒業せし女生は、多年の習慣に慣れて、暫時は

其受得たる教育の大抵無効なりしことを、未だ發見せずと雖ども、久しからずして、頓に之を感悟し、切りに過去を追想して嗟歎するもの極めて多し。吾黨不斷此等の不平と嗟歎とを聞く。思ふに、此儘にして倘ほ放任せば、彼派女學校の衰滅は決して遠からじと。之が爲めに、年來義捐せる多數の慈善者が厚意を想ひ、海波万里を横ぎりて渡來せる熱心なる宣教師の衷情を察し、翻つては、方今我國の女子教育界に、之と云ふ可き十分なる女學校、太はだ少數なることを顧りみ、慨歎禁ずる能はず、不肖を忘れて、敢て一策を外來の友に献ず。此策尋常の思念より發せず、實に、徹衷止みがたきものより吐露する所ろとす。彼派の諸君子、もし一顧參考せば、吾黨が光榮、滿足、筆紙の能く悉くす所にあらざる也。

人は總じて、特に取分け幼なき時は、自然界に親接すべし自然界の現象の外形若くは些細なる事柄に對してにはあらず自然界の内に生き自然界の上を支配する神の生氣に對して親接す可し、實に幼な子は尤も深く之を感ずるものにて亦尤 深く之を需むるものなりと。(フレーベル)。

雜録

婚姻の式のはなし

山下石翁

結婚の儀式にて、當世に適する新方案はなからずや。三々九度の杯を用ゆるは、禁酒主義の人の堪えがたき所ろなるのみかは、實は馬鹿氣て、中途に吹き出さん許りに感ずる人もあるべし。然らば、杯を止めて、何物を用ゆべしやと言ふに、頓と見當らず、思ひ出づるに、之と言ふ可き適當のものあらずと感ず。然らば、杯を用ひず、之に代ゆ可きものを用ひず、抑も何如にすべき。前年、森有禮君の新工風にては、東京府知事の格を以て大久保一翁氏中央に立ちたる坐敷の眞中に、新夫、新婦、左右より横に出で、會して點頭す。來客は此方一面に集まり、一二時間も待ちたるものありしが、此丈の式にて直ちに濟み、アット驚ろきたるもありと傳ふ。此のヲチギのみも、餘り感心せず。

佛教にても、追々婚姻に關係することとなれり。前年、某は、佛教夫婦論と云ふ一書を著はし、佛教は、死人のみを扱はず、自今は生き物をも扱ふべしと論じたることありしが、去年より

三好と同道して如水の許へ銀子返辨にとて行き、先づ如水に逢ひて一禮を述べたるに、如水は出て對面したる後暫くありて人を呼び、いへるやう先刻貰ひたる鯛あるべし、あれを三枚におろし骨の處を吸物として出すべしと。兩人は之れを聞きてさて〳〵吝き人かなと心に思ひしが、やがて其吸物にて馳走になり、宴も濟たれば。兼て持參の銀を取出して返しけるに、如水は之れを手にだも觸れず。此金は最初より合力する心にて用立しものなり。返濟を受る心にてはなしとて、如何に強るも受取らざれば。兩人共詮方なく其儘に持歸りしといふ。一方には一尾の鯛をも無用には費さず、而して友の急には百枚の銀を擲ちて惜まざるの志是ぞ節儉の心を得たるものといふべし。

○阿部忠秋の慈心

阿部豐後守忠秋將軍の名代として、上野增上寺に參詣する時は、いつも早朝なりし故、往々巷に捨子あるを見出すとあり、然る時は早速供の者をして之れを拾はせ、屋敷へ連れ歸りて懇に之れを養育せられければ。後には貧しきもの共此事を聞傳へて、故らに豐後守の往來を待ち受けて、子を捨つる事ありなど、とり〳〵噂しけるほどに。家司共之れを聞き及びて、豐後守にいへるやう。我侯は御恩寵の思召を以て拾はせ玉ふとも。態と捨るものあるやうにては、下々に計られ玉ふやうにて甚口惜く候。殊に餘り澤山の小兒御育にては、費用も少からず候間、此事は御止まりあるやうにと諫めければ。豐後守之れを聞て打笑ひ、皆の者共能く了簡せよ。凡そ親子ほど世に恩愛深きものはなし、假令人より預りて乳房を含ませたるのみの緣子にても、よく〳〵の譯なくては、爭でか思ひ切りて捨らるゝものならんや。何共仕方なければこそ棄るにぞあらむ。汝達も親の心に成りて見よ、假令予が拾へばとて、粹興に子を捨るものあらむや。又之れを育つるに、家中を苦しむるやうならば我誤なれど、家來には相等の扶持をして其餘を以て余が爲すと、遊興に遣ふとは事替れば、左迄に意見をなすにも及ばざるべし。殊に我は將軍の老職として、天下の政事に與る身なれば、捨子のあるは將軍の恥なり、其恥を隱さば、老職の身として、當然爲すべきとならずやといひて、依然棄兒を拾ふとを止めざりしとぞ。

○秀吉の心掛

太閤秀吉或年高野山へ參詣しける時、割粥あれば進めよといひしに、暫くありて料理人之れを調へて參らす。秀吉大に悦びて、高野は臼なき處なるに、我わり粥を命ぜむを推して、此處迄用意し來りたる料理人の殊勝さよ、才覺のほど賞すべきなりとて機嫌斜ならず。後人ありて太閤にいへるやう、實は彼時多くの人數にて、急に爼板の上にて、刻みて差出せし粥なりといひしに。秀吉大に怒りていへるやう無ければ無きにて事は濟むなり。割粥の代りに、常の粥を進むるに何程の事あらむや。我は今我身分にして、假令ば米を一粒づゝ割らせて用ひむも、我心の儘にてはあれど、さやうに物に人手を掛け、奢りたる事はせぬものぞとて、怒りは容易に解けざりしとなむ。秀吉にして此心掛ありしは、賞すべきとなりかし。

○板倉重矩の注意

板倉内膳正重矩は、慈心深き人なりしが、我奧向に遣はるゝ女中も、廿四五歳を限りて暇を出し。如何程氣に入りたるものにても、其頃になれば夫々縁に就くべしとて、屋敷に止め置くとなし、之れを其家法とす。其故は女は盛りあるものなれば、能き時分に縁付しむべし。何時迄も召使ふは、主人の慈悲に非ずとの事なり。事の可否は措き、感心なる心掛といふべし。

○女のたしなみ

徳川四代將軍家綱公の御臺所は、伏見一品式部卿親王の姫君にて貞烈の譽れ高き御方なりしが。延寶の中頃乳岩を煩ひ玉ひて、御容躰輕からず。依て典藥を召され御容躰を見せらるゝに、此頃は夫々例規ありて、典藥たり共直接に御臺の御脈を診するを得ず、則ち糸脉といひて、糸を以て其脉搏を伺ふとなりしが。乳岩の如きは直に御臺所の御身に近付きて診察をもし、又療治をも加へずては、何共治方成り難しと典藥共申ければ。將軍も許容あり、皆々此由を願ひけれ共、御臺所曾て許し玉はず。只今迄簾外の者には、對面したるとなき身として、今更命惜しければとて、爭でか肌を人に見すべきや。殊に乳岩は、千に一つも平治し難きものと聞く、去れば素より覺悟の命なり。若し天命あらば、糸脉にても試み、膏藥にても自然に治る時あるべし。生まじき命生きむとて、公家方の禮法を亂すとあるべきやとて、遂に其秋薨去し玉へりとぞ。今よりして之を推せば、些頑にて在せしやうなれ共、其節

の貴婦人の御たしなみとしては、誠にいみじき事といふべし。

○利勝敎誨

徳川三代將軍家光、未だ若年なりし頃。居所を急に造り替るべき指圖出て。明日中に此普請かく〳〵出來せしむべきやう、隨分急がせよと命ぜられけるに、松平伊豆守信綱之れを承りて、其夜の内に、將軍の命令通り造り出し、白壁とすべき處は奉書を以て之れを張りなどして、都合能く仕上げたり。次の日家光之れを見て限りなく喜び、厚く伊豆守を勞はる。折から土井大炊頭利勝登城して此事を聞き、信綱を招きていへるやう。天下を治むる人は、物事の成就すべきほどを考へらるべき事ぞかし。今將軍家の御威光にては、一日の内に館をば、幾個も造り出されむとは、素よりいとも容易き事にてはあれど。殿は未だ年若く在せば、物事輕々敷成就させ、自由を調へては、御目にかけぬものなり。左なくては天下の勞れとなる事多く、無益の費を要する事をも、何とも思召ぬやうになるものなりといはれしとぞ。今も富る人々の其子供を育つるを見るに、何事も自由なるに任せて、子供の欲するが儘に其欲を達せしむるとあるなり。中には子供の欲せざるに美服を纏はせ、用なき玩具を調へなどして、贅澤なる習慣に陷らしむるもあり。かゝるとは成長の后、大なる、害を貽すものなれば。眞に子供を愛するの人は、目前の娛樂に溺れずして、苟且の事にも、深く子供の前途に、善き習慣を與ふべきや否に注意せられ度となり。

家政

内治の辨

ふみ子

形に於て大小の差はあれど、國務大臣として一國の大政を料理するも、主婦として一家の内政を治むるも、其責任職分に於て替る所なきは、甞て本誌の社說欄内にも記述せられたる事あれば、今更儂が喋々する迄もなけれ共。さて其一國と一家とに論なく、凡て内治といへるものゝ神髓は如何なる仕事を指していへるものなるか、是を辨ずるは亦是一家内治の主任者たる主婦君達の御參考に供するに於て、敢て無用の言にも非るべしと思ふがまゝに敢て之れを左に記しぬ。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

先づ國に就て之れをいはゞ、其國に内亂なく、綱紀は張り法令は行はれ、財政は能く調ひて歳出は歳入に超過せず、衞生は普及し學術は日に進み、農商工各自其業に勵むならば内治は之にて完きものといふべきか。若し夫れ其内亂のなきは、内亂を起すべき機會兵力なきが爲め。其法令の行はるゝは司法警察の權威嚴密なるが爲め。其財政の調ふは租税收斂の重きが爲め。衞生は表面のみ行屆きたるが如く、學術は空理空説にのみ走りて一も國利民福を增進するとなく、農工商孜々として其業を勵むが如きは、糊口の費用に追はれて、止むなく瞬時も其休息を得る能はざるにてあらむには、爭でか之れをば内治の宜しきものといはるべけむや。若し又假りに是れ等の事悉くさる反對の事實はなく實際に於ても亦其効を奏し居るとも、是のみにては内治の法完きを得たるものとはいふべからざるなり。されば此他に何等の必要なる事かあるといふに、其は一國の人々を撫で安んじて各其所思を達せしめ、之を善に導くといふ事なり。之れを換言すれば、一國の人々の心を治するといふ事にて、内治の神髓之よりも大なるものはなし。此神髓にして行はれずんは、假令外部の物質的治績は、如何に躰裁能く擧りたり共、到底一國を安全善美の地位に置くを得ず、又主治者としての責任を、盡したるものともいふべからざるなり。されば一家の主婦として、内政を掌るの心得も亦斯の如し。如何に一家の事務は都合能く整ひ、舅姑は苦情を云はず、良人は滿足し、子供は戒めを守りて其敎諭に背かず、お三も八助も其職分を怠らぬなど、眼に見ゆる處の治績に於ては、如何にも間然する處なきが如く覺ゆるとも、未だ是のみにては滿足すべきに非ず。自ら能く省みて我心幷に行に問ひ、假りに又一家の人々の地位に我身を置きて、何人も我仕方に對し、内心不平不滿を抱くべき事はなき乎。又眞に我一家の人々は、身をも心をも此家裡に安んじ居るやなどいへる邊にまでも注意して、一家内に於る總ての人々の心を、和樂ならしむるやう勉むるこそ肝要なれ。殊に舅姑良人など主婦よりも長上の人には、主婦も知らず識らざるの間に注意をも怠らず、又是等の人は缺點ある時は、遠慮なく主婦に言ひ顯はすの便宜もあるものなれ共、其他の同居の家族、若くは奴婢などは、主婦に對しては當然遠慮勝にて、思ふ事も得言はざるものなるべければ、別て目下の者には深

く意を用ひて、撫で安んずるの心得を要するなり。斯くして一般の家族の心をも治め、而して又其道念の有無消長にも注意し、善なるものは益善に、其未だ善ならざるものは、勉めて之を善に導くの方法を考へ、一家を擧げて善美なる人となるの道に進みなば、其内政の美何ものか能く此右に出るものあらむや。斯てこそ内治能く行き屆きたりとはいふべけれ。主婦たらむ君達は、冀くは此所に意を注ぎ玉へ。

○親戚の會合

昔は五節句などいへることありて、四季をり〳〵親戚朋友相會することなどもありしが、今は左る機會もなく、又人事の日々に多忙に赴くまゝに、親戚間にありても、其要用上よりして往復するものゝ外は、單に吉凶の出來事ありし時にのみ相集ることゝなり、平素は一向に交際することもなきやうになりたるが多し。是甚遺憾のことなり。凡そ人情は屢交れば親しくなり、遠ざかれば疎くなるは、免れ難きことにて。又たま〳〵出會するには粗末なるもてなしも成し難く、肴の一種も餘計に心配せねばならぬ事となるものなれば、疎きは益疎く、親戚の交際も勤めのやうになりて親密の意を缺くに至るものなれば、是は何とか工夫して、四季をり〳〵に其時を定め、少くも一年に三四度は、親戚といふ親戚を集めて、わざとならぬやう、共に打寛ぎて談話をもし、又共々晩餐位を食するやうの仕組になして、常に其厚情を失はぬやうせられ度ものなり。而して此事を實行するには、生活塲裏の奔走に忙しき、其人同士に任せ置ては、其期を外すこともあらむなれば、奥様方が御注意なされて、然るべき時々に、親戚の方々を、一塲に集て、歡待し玉ふことを忘れ玉ふべからず、是甚美風ならむと信ず。

家内重寶錄

○南京汁

味噌汁へ玉子を摺り交ぜて入れ、煮へ立たる處へ、豆腐のからを、油にていりたるものを入るゝなり。

○早枇杷

玉子を煮ぬきにして、白みを去り、黄身ばかり躰裁能く積み、夫れに枇杷の葉を布きて出す。

○蕪菁でんがく

蕪菁の根を、皮を去りて、丁度茄子のでんがく位の大きさに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

小口切になし。串に挿して一寸焼き、醬油を裏面に一遍付けて、又焼き。焦げぬほどに焼けたる處にて、油を少し布き味噌を付るなり。味噌の味付け方は、茄子や豆腐のでんがくに同じ。冬季は、殊の外暖かくて好きものなり。但醬油を付けるは、無用なることのやうなれど、醬油を付けねば、工合能く焼けぬなり、焼けても中へ火はとほらず。故に醬油を付るとは、省くべからず。

○焼白魚

白魚を、鐵網に並べて焼き、鐵網共に裏返して、又裏面を程能く焼くべし。(斯くするも。魚は火に落つるとなし)、而して兩面共焼けたる后、鐵網と共に水に入るれば、魚は奇妙に離るゝなり。

○花松茸

松茸の笠を去り、軸ばかり六七分ほどに切り、干して春に至りて花の形に切りて煮しめ、小口切にして用ゆ。

○胡椒を粉にする法

胡椒を粉にするに、藥研などにて摺る時は、外へ飛散るものなり。夫よりは茶碗などに入れ、瓢簞の尻にて摺れば、忽ち細末になるなり。

○冷飯を炊たての如くする法

先づ火にて釜を充分温め置き、さて冷飯を入れて釜の内面の方へ水をうち、其儘蓋をなして暫く擱き、然る后櫃にうつすべし。炊きたての飯の如くなるなり。

○甜瓜の作りもの

大根の中をくり、其くりたる跡へ密柑を丸なりにて押し込み、大根を六角にむきて小口切にすべし。恰も甜瓜をはやしたるが如く見へ、冬春の頃のひやしものゝ飾りには、一興あるものなり。

○鷄卵を殼共に截る

卵をゆで、熱き處をざつと酢に浸して切れば、殼共に切るゝなり。

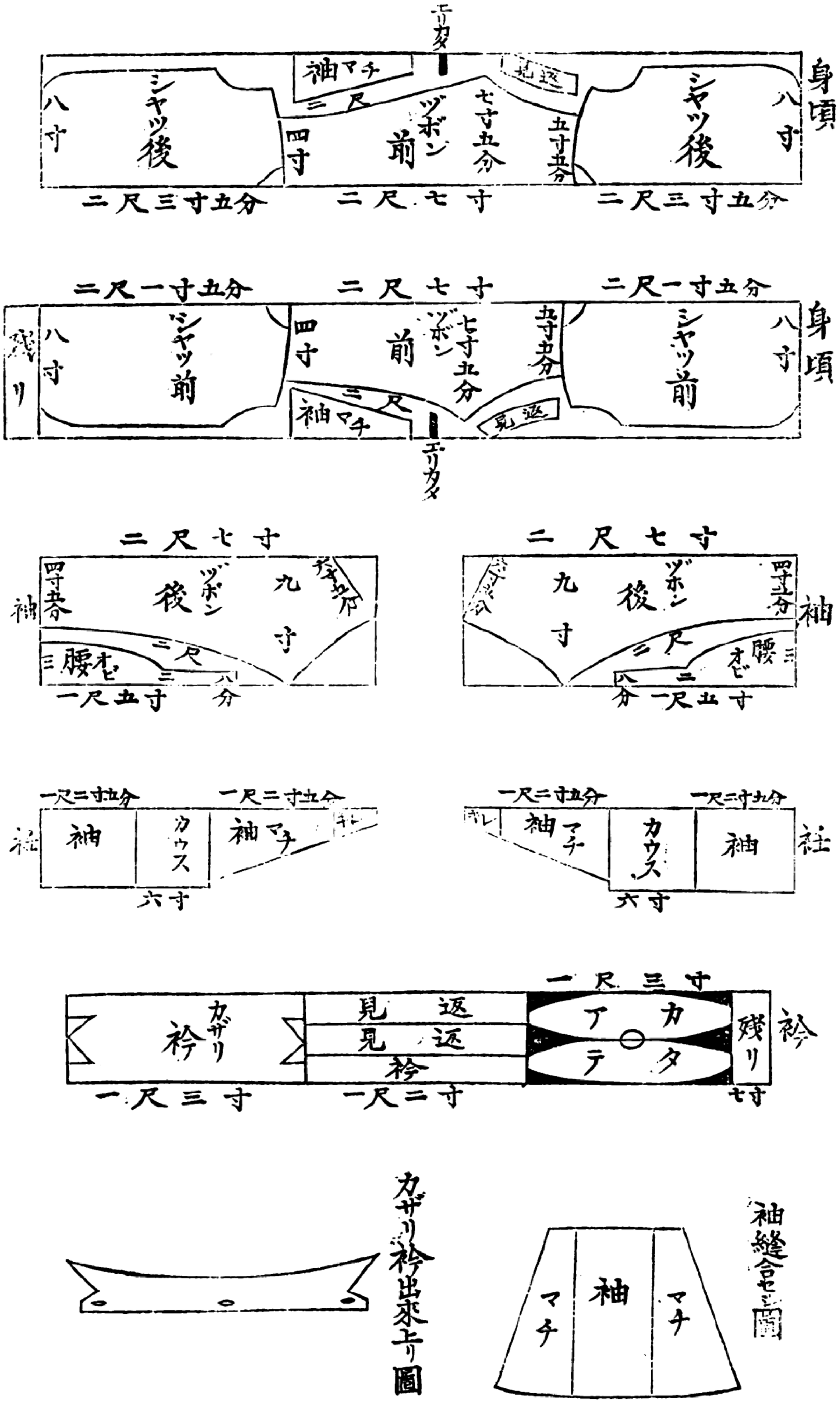
○味噌飯

何も入れざる釜の内へ、味噌少々入れて焦げ付かせ、杓子のうらにて能く〳〵釜の底へこすり付け、水少し入れ夫よりして米を入れて炊ぐなり。水加減はよきほどにすべし。茶飯の如くになりて一寸風味よろし。

○新工夫シヤツ、ヅボン下たち方

本郷東竹町廿五番地渡邊方　塾　生

身の丈け三尺七寸五分袖丈け一尺四寸五分のフランネルの單物を以て大人のシヤツ一枚ヅボン下一ツの裁方の工夫



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

茶話會

茶話會の連中、差支ありて、一寸一席休みました。又今號から預れて御意得升から、何卒御退屈なしに、御聞取下されたし、餘り茶話しのみにては御退屈さ存、菓子でも呈し度さ、實の處は一寸考へ升たが、夫れでは家內重寶錄の領分を冒すやうなり升から。爰は矢張茶計りで御容赦を願ひ升さ（一回休みしだけに）お世辭らしき申譯を致す斯の如し。頓首……

賢不肖の識別

或る功者なる人の話しに、惣て人の賢不肖は、假令ものいはず共、自然其擧動に顯はるゝものなり。先づ常に人々集りたる席上に於て、其坐並を見るに、餘り賢からぬ者は、常に人並外れて前へ出て坐し、利口なる人は人並に坐し、一癖あるもの又は、陰險なる人は、何時も人より引込で居るものなり。是は丁度馬にても、人喰馬の癖に、溫和しく引込て居るが如し。愚なる人の圖外れに前へ出るは、無心なるが故なれど、甚見苦しゝ。又衣類調度などの類を見ても、大概人の氣象は知らるゝものなり。心荒々しき人、又は勢能き人などは、色もはつきりしたるものを好み、紋も大きく、縞柄もあらきを自然用ゆるやうなり。溫和しき人の好みは、兎角目立ぬを專とするやうなり。又性質奇を好む人は、いつも異樣なる衣服調度を用ゆ。多くの人々に就て考ふるに、十中の半以上は是にて大概目安付くが如しといへりとぞ。

○外形と心裏

又或る老人の話しに、兎角人は能く交際して見ねば分らぬものにて、一寸見に甚好き人のやう見ゆるものにても、交際して見て宜しからぬあり。又一寸見たる處は、甚憎くくしき人と見へても、永く交際して見れば存外能き人のあるものなり。されど人は、人每に充分親しく、永く交際して貰ふ譯にも行かず。又時と場合、身分職業に依りては、心安からぬ人にも、多く接せねばならぬ事もあるもの故、矢張一寸打見たる處からして、人に嫌はれぬ風采なるが好し。精神さへ正しければ、形は如何やうにても善しといへるは、世捨人のいふべき事にて、社會に立ちて事を爲さむとするものゝいふべきとには非ず、矢張何人にも誤解されぬやうの、風采擧動應接振りにてあるが好しと云へり。

○諺歌

或る昔話しに、世に合ふ歌と、世に合はぬ歌といふ二品なり、其世に合ふ歌といふは

世にあふは、左樣でござる、御尤。是は格別、實に結構、

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

世にあはぬは

世に合ぬ、そふでござらぬ、去ながら。是は御無用、道理ないこと。

是は兎角人といふものは、己れに同意し、己れを賞むるものを喜ぶをいひ顯はしたるものなれど。是を實行しては、浮薄不眞實の端となるなり。但人間の弱點は、誰しも爰にあるとを記憶し置かば、己れ人より同意を得ぬ時に、省るの材料とならむ。

○障子紙離れぬ法

障子など張りて、紙の離れ易きには、糊を酢にて溶きて張れば、離るゝ患なしといふ。

○銀箔を急に錆さす法

銀屛風などの箔新らしくて、餘りピカ〳〵と光り過るを錆ささむと欲せば。銀箔の上へ硫黄末を一樣に振かけ、暫くして鳥の羽にて拂ふべし。さすれば少し黒味付きて古きものゝやう見ゆるなり。暖氣の時分は一二時間にて成れど、寒冷の候には五六日もかゝるなり。

○冬日花瓶の水凍らぬ法

冬日は花瓶の水凍りて、磁器などは破るゝとあるものなり。之れを防ぐには、燈油を少々花瓶中の水に點じ置けば、如何なる寒氣にも凍ることなし。

○櫛に垢たまらぬ法

常に遣ふ櫛は、新らしきを其儘用ゆる時は、齒の間に垢たまり易し。されば未だ一度も使用せざる時に方りて、水油をば齒の間にたまるほど能くぬりおき、二三日經て用ゆべし。決して垢たまる虞なし。

育兒　（其二）

哺乳の定則

子供に乳を與ふるに、時間を限らず、何時にても泣きさへすれば、乳を出して與ふる人あれど。是は甚宜しからぬ事なり。斯の如くすれば。小供の腸胃をも害し。又母親が少しも、子供の傍を、離るゝ事出來ざるやうになるなり。故に一定の時刻を以て、與ふるを好しとす。尤小供の年齢、身躰の強弱發育の狀況に從ひて少差あれど、其概畧は。

初月及次月の比は、一時或は一時半毎に一度

第三月目よりは、二時或は二時半毎に一度
第六七月目より滿一歳迄は、三時或は四時毎に一度
其分量は、五分或は十分間など、時刻を以て限れるもあれど。腹に滿つる時は、小供は大概自ら乳房を離すを以て、夫迄は、與ふるが宜し。飲ます時充分に飲まさゞれは、忽ち腹を減して、時刻の來らざるに、乳を欲するやうになるなり。又産后一月を經たる后は、成るべく夜乳を飲さぬやうにして、夜十時か、若くは十一時頃に充分に與へて、未明の頃までは與へぬやうにするが宜し。小供は度々眼を覺すものなれど、其時は靜に背を叩きなどして眠らすやうにし、夜乳を飲さぬ習慣を付るべし。然らざれば母親の躰弱り、容易に産后の衰弱を回復するヿ出來ぬなり。而して夜乳を與へぬ事とすれば、夜分だけは、他の子守り又は老婦人に代りて保育さするヿを得るを以て、大に休養に便利なり。

生后乳齒を生ずる迄の間は、決して他の食物を與ふべからず。母乳不足なる時は、牛乳を以て補ふべし。牛乳と水との割方は

生后三ヶ月迄の小兒には　牛乳壹合に水二合
三ヶ月より六七月迄は　牛乳壹合に水壹合折半
六七月より一年迄は　牛乳壹合に水五勺
一年以後は純牛乳

此割方は、他の育兒に拘る書物に掲げし規則よりは、少しく濃厚に過ぐるやうなれど。日本などにて、市中に販賣する牛乳は、醫學上に所謂純牛乳なるものよりは、必ず多少の混和物ありて、幾分か稀薄となり居るものなれば。西洋の書物に掲ぐる割方とは、少し濃過る位にて、能き程となるなり。日本にて出來し翻譯書中にも、西洋の書物通りに書きしものありと見へ。其分量通りにせしに、小兒下痢を催して困りしといへる婦人ありき。兎に角實際に用うる時は、種々に試みて、加減すべきヿと思ふ。砂糖も一定の分量はあれど、夫よりも一寸雫を滴らして之れを嘗め試み。一寸甘き位に加ふるが宜し。尤牛乳、水共、一度沸騰させたるものを用ゆべし。

コンデンスミルク

コンデンスミルクは、小兒の爲には、牛乳に次ぐの食餌なり。往々粗惡なる原料にて製せしもあり、一寸臭氣あるヿ、防腐の爲めに砂糖を多量に混和したるヿにより、牛乳よりは、腸

胃を害する恐れあれど、山間の僻地、又は大暑の頃牛乳にては、腐敗に傾き易き恐ある時などは、コンデンスを用ゆるの外なければ、是亦必用欠くべからざるものなり。其外國より輸入するものゝ中にては。鷲印のものを、第一に宜しとすとは、兼て大醫の説く所なりしも、其鷲印の聲價宜しきより、目下内地にて其商標を擬造するものあり。鷲印中にも、間々粗悪の品ありといへば、之れを用うるの人は須らく注意し玉ふべし。其之れを湯に溶解して用ゆるには、矢張砂糖の味を嘗め試みて、其甘さ適宜となるを度とすべし。

兒籃

吾が宿の花

第七回（下の二）　若松しづ子

叔父はアーサの言葉を聞いて、一寸其顔を見、又見して、面白いことを聞いたといふ樣な顔付をし升た。

ハヽア、さうか、一番器量の好のかへ？それでは、ナニ、若い男に幾人も朋友があつて、似付の好い帽子が被ぶり度といふ方だらう…………

アーサは腹立しげに、

どふして〳〵そんな人だもんですか。そんな娘ッ兒とは大違ひです。男子の朋友なんて、そんなこと考へたこともない方です。

といひながらいかに忌は敷ことを聞ものかなといふ顔付をして居升た。叔父は口を噤み升た。そして朝飯を濟ませて、新聞を讀みながら、家内のものがいつもの通り、忙しげに雜用に働いて居るのを頻りに眺めて居て、俄かに思ひたつた樣に突つたつて、間近かに居合せたトムに、

こゝじや鷄を飼のかへ？

トムは

エー、大變飼つて有升わ。

それじや、わたしに案内して見せておくれな、（チャールスとアーサの後ろに續いて來るを見て）サア〳〵あとの人は來ずともだ、歸つた〳〵。

ハラは叔父の見えなくなるを待つて、沸へ反るほどな怒りに

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

頬を膨らし、戸の後ろに人知れず、叔父の靴を磨いて居るヂーヤンの側へ行き、小聲ながら息遣ひあらく、

あたしはあの叔父さん憎らしくつてよ。

僕も憎いんだ、ヂット、人を憎むのが悪くなければ憎むとこなんだ。

ハテ、

わるくたつて、あたしは仕方がないわ。人を馬鹿にして、人を……あたしたちを犬猫かなんぞの様に思つて、靴なんか磨いてお遣りなさんなよ。

ヂヤンは手を休めて、

僕もよさうかと思つてるんだ、人を困らせる氣でしたに違ひないんだから。

あにしたの？

なにつてチ、朝飯が濟むとチ、こゝへ出て來てチ、おかしくグル〳〵見廻してチ、いふのさ、「小僧はどこだつて」、「小僧ッて」、誰のこつてす」ッて僕がいふと、「ナアニ、靴磨さ」といふから、「それは又誰のこつてす」、そんなものこゝいらに居やしません」といつたら」、笑つて、僕の耳をつめつたんだ。御覧、まだ赤いだらう。きつと泣せやうと思つたに違ひないダケド、あんな人に泣せられてたまるものかチ、それからチ、人を……「おまへはしばみ（黒き色の木）で出來てゐるだらうといふからいゝへ、土で出來て升といふとアハ〳〵ッて、大笑ひに笑つて、（誰がおまへが土で出來てるつて、教へて呉れた」つていふから、聖書に書いて有升ッて、いつたら、默つて行つてしまつて、靴を置いてつたから、キット磨けつていふんだらうと思つてさ………

と互に怒りを漏らして居ると、其怒りを引起した人物はトムの手を引いて、鷄を見ながら頻りに其談話を聞いて、餘念のないものゝ様でした。ホイッテヤ氏は

これじや、にわ鳥は大層食べるのだらうチ？

スルト、トムが何氣なく、

ナアニ、おとうさまが市へ遣つちまうんです。

オヤさうか、それじや玉子丈は澤山たべられるだらう？

エー、玉子は食べるけれど、アーサさんは自分の鷄の産んだ玉子はみんな賣るんです。

なにしにさ、

それで本買うんですもの。

どんな本買うのだへ？小供小説みた様なものか？

そんな遊びによむ本じやないの、そんなのは買やあしないで、とつかへるんです。

とりかへるのか、何ととりかへるのだへ？

なにつて、自分のナイフをやつて、古い本なんか貰うんです。ダケド、玉子を賣つて買う本はそんなんじやないの、それはみんな勉強の本です。

さういふ本、なぜおとつさんに買つて貰わないのだ？

トムは追〻と無遠慮に尋ねだてをする叔父の顔を大きな眼を開いて見詰めながら、

でも、おとうさまは、さうたんと、色々買へないんですもの。

叔父はまた唐突に、

誰がおまへたちの着物を洗ふの？

かあさまだの、ルーセ姉さんだの、リベカ姉さんだの、それから、アーサさんとジヤン兄さんたちはみんな自分たちの床を敷くの。僕だつて、もちつと、大きくなれば、自分で敷くの。アーサ兄さんがさういふの、おつかさまや、姉さんたちに自分の床なんか敷せるもんかつて。大變と用が有んですもの。

それで叔父が自分のいつたとを聞いてひどく驚ろいた様子を見てとつて、

でもネ、先ほどは貧乏じやないんですよ、誰だか、かあさまにお正月時分五十圓よこしたんですもの。

それで其お金をおつかさんがどうしたのだへ？

始めにはネ、かあさま泣てたんです。それから其お金でルーセ姉さんをどつかへ遣らう、お醫者さんが出養生をさせろつていつたからといふと、ルーセ姉さんがアーサさんが大學へはいる時までとつといてつて大變頼んだんです。それから又おとうさまへ手紙をよこした人が有つたけれど、お金はよこさなかつたんです。

其人はよこし度つても、よこせないんだらう。

トムは何氣なく、

なぜよこせないんでせう、

おとつさんが怒るかと思つてさ。

僕のおとうさんなんか怒るもんですか、だけど其譯でよこさなかつたんじやないでせう。

じやあ、たとへば、わしが金をよこしたら、おとつさん悦こぶだらうかネ？おまへ何と思ふかネ？

それは悦び升とも。

よし〳〵、そこでおまへ、わしがおまへに色々尋ねたことを誰にもいつてはいけんよ。サアこれをやるから。

トムは急に兩手を後ろへ廻してしまひ。

僕話さない譯に行ませんもの、

なぜ？

でも、かあさまには何んでもかんでも話しつちまふんですもの、かあさまがさうすれば、わるいことをしないで好といつたんですもの。

それではおまへ、わしがさま〳〵なことを尋ねだてしたとお袋につげるのか？

僕そんなことを知りやしません、叔父さん何もわるいこと言て居たの知らなかつたんです。

ホイツテヤ氏は、當惑顏にあたりを見廻し、

コイツハ大しくぢりをやつた。どふも仕方がない、モウあつちへいけ、何もかもいふが好い。

トムは大ふくれに膨れて、直ちにお袋の處へ行き升た。そして大聲に、

かあさま、僕、あの人大嫌ひです。僕の叔父さん、あんな人じやないは。

母はなだめて。

コレサ、そんなことはいふものでないよ、好兒だネ。

僕だまつて居られないもの、言ひ升は。アノネ、かあさま僕たちが鷄たべるかだの、玉子食べるかだの、なぜアーサ兄さんに書物買つて遣らないだの、なぜルーセ姉さんを餘處へやらないだのつて聞いて置いて、誰にも其ことをちつともいつちやいけないなんていふんですもの？デ、僕、かあさまにはいふつていつたら、しくぢつたつて、僕をグイト壓して、人にあつちへいけ、なんて、いけない〳〵人だは。

コレ、トムや、おまへはまだ少さいから時々は間違つたことをするだらう、知つて居るだらうネ、たつた今もかあさまに對していへさうもない失禮なことを言ひ升たよ。おまへは

叔父さまの仰しやる譯が分らないのに違ひないよ。それで子よしか、このとは誰にもひと言もいつてはなりませんよ。

ルーセ姉さんにもいつていけないの？

いゝへ、ルーセ姉さんにも誰にもだよ、そしておとなしくなるまでこゝへ坐つて靜かにしておいでなさい。

僕今だつて音な敷ですよ。モウいゝつかつから、おとなしいんだもの。ルーセ姉さんがさういつたもの。デモ僕あの人はきらひ。

グラント夫人はかふ聞いて、當惑し、

おまへ方はみんなどふおしだ？どこを向いても／＼。トムや、おまへにも呆れてしまふよ、この頃は音な敷好兒であつたもの。

トムは母の頸にシツカリ抱ひ着いて、

かあさま、かあさまを困らして御免なさい。これから音なしくし升から子、

といひはしたものゝ叔父が此時向ふから來るのを見て、又始の憤りを顔に現はし升た。

時事

○種痘規則改正

今の種痘規則は、少年の爲に用意するのみにて、大人の爲にする事少なきが、衞生局の年報に據れば、二十歳以上の患者の數、患者總數の二三割に當るほどなれば、此の取締も嚴しくせざるを得ず。又、一度ほうそうをして面相隨分有がたからぬ人にても、再患すると多く、いよ／＼現行規則の不完全を示せばとて、本年の議會には、其改正規則案出ると云ふ。

○ウエスト女史を悼む

あゝウエスト女史。日本國社會改良の爲に、万里の海原を横ぎりて渡來し、寒風烈霜を凌ぎて、北海に、東北に、北陸に遊說せらる。今や、不幸にして、征途の中に倒れ、戰未だ勝たず、身先づ死して、恨意長しとこそ痛むべけれ。左れど、之よりぞ、女史が意を續ぐもの頓わかに増し、海外より渡來遊說する人の員必らずや大ひに加わるべし。酒敵に對したる女史が名遠永に紀念せられ、神州禁酒軍の陣頭には、常に其名を標掲すべし。あゝ其死は悼むべくして、其功は賛ゆべし。

○高知の怪報

高知赤十字社の懇親會を、稲荷新地得月樓にて開きしと云ふすら奇怪なるに「餘興の福引に、「一夜妻誰が枕せん今宵かな」と記したる籤を作り、之に當りたる人に、娼妓二時間の福を引かしたりと傳聞す。あゝ、あゝ是れ何等の醜ぞ。赤十字社は即はち　皇后宮陛下の御看護に屬し、義人慈善の爲に力を盡さんとするの會なるを知らずや。

○看護術

伊藤伯傷つき、事突作にして、何人もあわてふためく可き折柄、伯爵夫人と末松夫人との取扱ことの外敏捷なりしとて、賞むる人あり。之れ赤十字社看護法の講話を聞き、平素の心掛ありしゆえと云ふ。看護の術は、婦人女子が學び置くべきものなり。

○快よきしらせ

人類の裁判の賴む可らざると此の如し。前年來、英米二國の人の心を寒くせしめたる、夫殺しメーブリック夫人は、其良人を毒殺せしとて終身禁錮せられたるに、今や眞の罪人現はれ、無辜の人、青天白日の内に躍り出んとす。

摘要

○聾啞結婚

大日本教育會雜誌去九月分に、小西八氏が右題の一譯文を載せて曰く、

親族中に聾啞なき后天の聾者（后天とは蔗后の意味）もしくは其兄弟姉妹と婚すれば其子聾となると少し。

之に反し聾啞の親類ある后天の聾者としては其兄弟姉妹と婚する時。又は聾啞の親類なき先天の聾者（先天の聾者とは生來の聾者の事）若くは其兄弟姉妹と婚する時。又は聾啞の親類ある先天の聾者若くは其兄弟姉妹と婚する時は其子聾となると多し

數多の精密なる表を添て、生れ乍ら聾啞と婚すれば、其子の聾となるもの多き理由を確かめたり。

○若手女記者

「新聞雜誌事業に從事する婦女子」と云ふ題目にて、評論之評論の記者ステッド氏は、「女青年」に一文を掲載せしむ。云く、

一　女性なりと覺悟するを勿れ（女性なるが故に雇はれず記者たるが故に雇はるゝやうにてあれ）

二　女らしく過感するを勿れ（記者として仕事に從へ、女らしからずとて事々と遠慮す可らず、かゝる遠慮する者は初より家内に安息し忙わしき新聞雜誌の事業に入る勿れ）

三　附添人を要むる勿れ（何處にても單行すべし）

四　初より給金を求る勿れ（先づ、速記を習ふか、字を善く書くとを稽古すべし、此邊にて少し支へ、近々に信用を得て記者たるの收入を得べし）

五　新聞雜誌を好く讀むべし（掲載せらるゝは、名文なるが故ならず、時に中るが故なり、沒書にせらるるは、時に適せず、早過るか、晩過る文章なれば也、夫故、平日其の投書せんとする新聞雜誌を好く讀み、今日のを見て、編輯者の明日の意向を察し、之に合ふやうにして筆を執るべし）

史傳

フランシス、ウ井ラード女史の人物

若し十九世紀を以て、或る人の考ふる如く婦人の世界なりとせば、「ウ井ラドー」女史は其の尤も貴重すべき人の一なり。抑々一個人の貴ふべき所以のものは其の事業の光彩粲爛たるが爲めに非ず、能く進歩の正道を蹈み着々として行くもの、之れ其の貴ふべきの人なり。埃及「ツアラオ」の朝廷に於て其の才智と謀略とに富める、必す「ヨシヤ」の如き「アロン」の如き輩に超絶せるものありしならん、然れとも彼等は皆朦朧として其影だに殘さゞるに、獨り「モーセ」と共に「イスラエル」の人を導き出せし人の名の嘖々として今に傳はる所以のものは、彼等が實に世界の將來に及ほすへき眞理の大道を蹈みしに由れはなり。「スチブンソン」の時に於て舊式の機械を研究するに力を盡せし者多きに、獨り彼と共に新機械の製作に從事せしもの丶名のみ今日に殘るは盖し偶然にあらす。左らはわれ等の考ふへきは之れなり、曰くわれ等果して進歩の大道を蹈むや、われ等果して將來に來るへき眞理を捕へたるや、或は猶ほ舊套に戀々たるや、人の價を定むるは爰に在り。當代の女傑「フランシス、ウ井ラード」女史は我等の捕へて考ふへき價直を有するの婦人なり。彼れを以て一個の人間とすれば偉人なり、一個の婦人とすれは又甚だ凡ならさるを見る、凡そ人の品格の美は到底隱れ終る者に非す、女史に一面の識あるものは彼を稱揚するの止む能はさるを見る、殊に我等が女史に於ても尤貴むへき所以のものは、女史が二個の大運動に牛耳を執れるに在り、思ふに此の十九世紀に大影響を及はせるもの前世紀の末に起りたる佛國の革命に如くものなし今や又此の世紀の終りに於て大運動起れり、之れ即ち婦人の權利擴張及ひ基督教を以て仁愛と確信とに向はしむるの運動との二つにして、此れ女史が率ゆる團躰の目的なり。

英語を以て國語とする國民の內に衆人の望んで以て大なりとする婦人二人あり、一は英國にありて、一は米國に在り。共に其任する處重く、其の艱苦と困難とを經て今日其名世界に籍甚たるに至り、婦人の才德兼備なるを言ふもの必す此の二人を推すに至れり。誰れが英國の女王「ウ井クトリア」を以て女傑とせさるものある、女王一たび英國の王位に登り、婦人も亦男子と共に權利ある一市民たるに適するものたるの確證と爲り、當代の大政治家を相並んで下る處なし。女王は實に政治の內に生れ、全身之れ政治にして、外務の事に明かなる、大臣も及ふ能はす內治の大事件に闕しては「グラッドストーン」氏も一歩を讓る事あり。「ジョン、ブライト」嘗て女王を稱賛して曰く、我未た女王の如く眞實なる人を見し事なしと其他頑固なる「クエーカー」の「フオースチル」氏と云ひ大政治家「グラット ストーン」氏と云ひ女王を稱嘆せし事屢なり。之を要するに女王が內閣諸大臣の上に立つへきの人物たる事は自由黨も保守黨も共に承認する所たり。然れとも猶われ等驚嘆措く能はさるものは女王が其の婦德を失はさるに在り、女王は飽くまても女性なり、之れ幾多の論者が有せし、婦人が政治に關渉するは其の天成の婦德を失ふものなりとの妄想を打破するに足るものにして、亦「ビーコンスフ井ールド」伯と「サルスブリー」侯となして婦人に投票權を與ふるに贊成せしめし所なり。婦人を以て華美を盡して飾り立てたる人形たらしめんとするもの警醒して可なり。英國に於ける女傑は斯の如し、米國の女傑は如何。米國には王位なし、彼の大統領の位も只男子の專有する處たれは、未た以て婦人が大勢力を示すの地なきが如し只僅かに新聞と講壇と教會とありて其の力を示するを得るのみ。而して此の種の事業の內に斬然として頭角を露せるものは即ちウ井ラード女史にして女史は是れ冠りなき米國平民の女王なり。大平洋と大西洋とを以て圍まれたる米國の大陸に於て、女史と力を等しくするの人ありや、われは言はん、女史は當代第一流の婦人なりと、王國の婦人は王國に適ふの働あり、共和政治の下に於ける婦人の働は亦之に適ふものあり、而して此の共和政治の下に生れたる、完全なる人物、無欽の摸範は即ち此の婦人禁酒會々頭ウ井ラード女史を措て他に求むべからさるなり。

女史の名素より世界に汎れし、亞弗利加に印度に、至る處其名を知らさるものなし。然れとも惜むへし若し其の來歴と女史の率ゆる團躰の成立を問はゞ之れを知るもの稀れなり、聊か爰に之を叙して江湖に紹介する事とせん。

女史の家系及び家庭

「アメリカ」人が一斑に嗜好に乏しく、親子の間に於ける交情の冷淡なるは、能く人の言ふ所にして、此方より觀察すれは事實なるが如し、彼等の利慾に走りて子を教育するを忘るゝが如きは屢々見る所なり。然れとも凡ての米國人に斯くの如しと評するに至りては誤れりと云ふへし、其の內には實に「ウ井ラード」家の如きものあれはなり。

「フランシス、ウ井ラード」女史嘗て自ら「われは生長するに從ひてわが頁き家族に生れたるの幸福を承認するに至れりと」云ひし如く女史の生れたる家族は一斑の米國風に似すして幸福なるものにてありき。兩親は健全にして、殊に母なる「メリー」氏は眞實人の母たるに適したる人にして自ら「母は其子に與へられたる生ける信經なりと」云ひし事あり、女史も母に付て「其の剛毅なると柔和なると愛情あるとは、わが未た他に見さる所なり」と、以て其の如何なる婦人なりしかを察するに足らん、一言之を蔽はゞ女史の家は理想の室家と云ふとも誇大の言にあらさるなり。

ウ井ラード家

女史の母は千八百〇五年「ベルモント」に生る、「ウオートルロー」の戰ありし後五年にして始めて生計のため小學校の教師となれり。母家の血統は頗る長壽にして

其の父は八十六才、祖母は九十七才、而して此の「ウ井ラード」夫人も八十七才の高齡に逹せり、前にも言へる如く夫人は身躰健全、思想深遠なるか上に其の眼光は常に樂むか如く見へ、其の良心は清教徒の嚴正を失はざりき。女史の父なる「ウ井ラード」氏は其の家を遠く市尹「サイモン、ウ井ラード」氏に起す氏に即ち千六百三十四年米國に移住せし人なり、抑々「ウ井ラード」は英國の猗族にして其名既に「ウ井リアム」二世の英國測地簿に擧げらるゝ五回なりと云ふ、米國に移住せし時の「ウ井ラード」氏は「コンコルト」の市府を創立せし人の一人にして其の名新英國の歴史に著しき人なり。女史は實に此の人の八代の孫なり、此の他「ウ井ラード」家に名を擧けし人多し、巫女の迫害に反對せし「サムエル」氏あり、「バンカー、ヒル」の碑を立てたるソロモン氏あり、其他獨立戰爭に於て名ありしもの數名あり。女史の父は母なる人と同年同列に生れたる人にして二十六才の時「ニューヨーク」に於て結婚し子を擧くる事五人なり、長子は幼年にて死し、次を「オリバー」と云ひ「シカゴ」每夕新聞を發行し、第三は女子にして生れて直ちに死し、女史は其の第四子なり。

女史の生前

古への「ハンナ」の祈りし如く、「ウ井ラード」夫人は熱心に子を得ん事を祈れり、既にして神は此の祈りに答へ給ひし後、夫人は聖書と詩人とを友として一室に閉ぢ入り、只節々出でゝ音樂學校に至り、麗しき女子の歌を聞く事ありき、之れ夫人か麗しき女子を得んとの望より出でしなり。斯くの如くして時至り、千八百三十九年九月廿八日女子生る、之の兒を評するの言に曰く「其の容姿は靜かにして色美しく、目は綠に髮は朝日に輝くか如く、腰長くして肢躰整へり、之れ一村の生ける人形なり」と、其名は「フランシス、ポルテー」及び「フランシス、オスカード」なる詩人の名を取りて「フランシス」と稱す、夫人は英國女王の名を取りて「ウ井クトリア」と命ぜんとせしなりとか。

女史の夙成

女史生れて夙成に且つ言多き兒なりき、三才の時一家「オハヨ」州の「オベリン」に移る、女史か四才の頃は既に椅子に坐して來客の前に歌はしめられし事あり、素と「ウ井ラード」家にては小兒を養育するに常に眞實なる事を教へたり、然れとも又其の精神をして自由ならしむるを勉めたり、殊に書籍の愛すへきを教へ、只に家事を勸むるのみならす、能く讀み能く問ふへきを教へられたり、故に女史も幼少より質問を試むるの風ありき、女史始めて、聖書は神の言なりと教へらるゝや「そは如何にして知らるゝや」と問ひ返せし事もあり、此の外若し神は美なるものなりとすれは、何故に彼の恐るへき死なるものを許せしや等の問は此の幼少なる女史の解する能はさる所なりき、只父母は女史を勵めて益々深く質問する事を許せり、女史か未た廿歳に逹せさる以前に母なる夫人は既に其の女の「メソヂスト」教派にすへきものなるを認めたり、教義の如きは兒の思ふかまゝに任せたれとも、又時に其眞理なる事を教ふるに勉めたり、夫人は多少舊教的の思想ある人なれは大膽なる「フランシス」は時に之に向て爭ひし事もありしと。室家には必す父母の内何れかゞ兒等と共に居るを常とせり、兒にして父母の前に來る事あれは、父母は必す其の場を去る事をなさす。「ウ井ラード」家は田舍に居りしなれは其教育は大低家庭に於て爲されたり、家は教會より數哩を距てたれは出席する事稀にして又日曜學校にも同しく出席する事なかりき、然れとも兒等は母の膝下に現世と來世とに付て學ふ所頗る多かりき、安息日には必す一時間を聖歌を誦するに費し、其の他は近傍の日曜學校より借りたる雜書と安息日學校雜誌とを讀む事とせり、殊に兒等は新約聖書の全章と詩文とを誦する事を教へられたり。

舞踏

尤も驚くへきは兒等の踏舞を教へられたるにあり、米國人は踏舞を好むの性あるは屢々新聞雜誌に見ゆるの事實に依りて知られたり、女史自ら其の家に踏舞の種か行はれし事を記して曰ふ「われ等は舞踏を教へられしにはあらされとも、わか母か躰操の術を究めたれは、從て此の種の事をも學ひ、わか戸外に出て、戯れんと欲せし節母は强いて共に舞はしめ、歌を誦して遊ひし事も屢あり云々」と。

五十年前の「シカゴ」

「オベリン」に移りて後四年にして父の健康宜しからす、終に西の方「ウ井スコンシン」に移るに必せり、一家か此の市を去るの風必す一見の價ありしならん。家財は盡く三臺の車に積み、第一の車は父の曳く處にして、第二の車は廿一歳なる女史の兄「オリバー」か曳き、第三は即ち夫人か自ら曳きしなり、「フランシス」と「メリー」とは共に夫人の曳ける車に載せられ、斯くの如くして行く事三週間漸く「ウ井スコンシン」に逹せり、此の途次一行か「シカゴ」に止まりし事ありき、此の時「シカゴ」の市は未だ整理せす、處々に泥土の穴ありて「底なき穴」と記せる標を立てたり、一日夫人の馬、砂泥の内に墮ち耳の邊まてを沒せし事ありしに、幸にして人來り辛うじて助け出すを得たりと、五十年前の「シカゴ」斯くの如し。

「フオレスト、ホーム」

一家か「ウ井スコンシン」なる「フオレスト、ホーム」に逹せしや先づ家屋の建築に從事せり、其の來りし時には未た一個の窓もなく戸もあらさりしか、忽ちにして之れ等を製作し氏の近傍は國中第一の地となれり。家は「ロック」河に沿ひて繁茂せる櫟の森の一端にありて前は遙かに天涯に連なる地平線を以て界せる平原を眺むの處なり。此處に女史は七才より十九才に至るまて隣人を有せす、只天然を友として住せり、女史の兩親は共に自然を愛し、母なる夫人は早くより女史に「コレリッヂ、クーパー、トムソン、ウオールヅウオルス」諸家の詩を紹介せり父は當々原野に徘徊し、或は森林に入りて禽鳥と共に樂しみ、其の神秘を悟るか如く、或は蝶や、栗鼠、蟻等を視察し、其の狀態を知る神の如く、日々に之れ等の動物を研究し、或は雜草や雜花の名を知りて其の用を確めん事を兒等に教へたり。

兄オリバーと

女史は又幸ひにして兄「オリバー」と親しき友なりき、其の狀を記せしものあり曰ふ、わか一家は人家を距れて在りしかは、友を求むる「オリバー」には多少の樂を缺きしならん、然れとも二人の姉妹は常に彼れと共に戯れたり、例へは「オリバー」か竹馬に乘りて遊へは二人も亦竹馬に乘り、彼れ獨樂を廻せは二人も亦獨樂を廻し、彼れ木に登れは二人も木に登り、共に鬼事を遊ひ、共に鐵砲を弄びたり云々」と（未完）

女報

可愛子稿

●皇太后陛下の御使　去月廿七日、內閣總理大臣伊藤博文氏は、車の顚覆の爲め傷きたり、此由電報をもて相州葉山なる皇太后陛下の御許に申上げられしに、直ちに電報を以て御見舞あり、尙廿八日曉林皇太后宮亮を御使として伊藤邸に差遣はされ、依て同皇太后宮亮は、一番汽車にて伊藤伯を病床に見舞はれ親しく御慰問の事あり、尙嗣子伊藤勇吉氏並に伊藤令夫人に就き、病症の模樣を聞取り、診斷書寫を徵せられ、林皇太后宮亮之を携へて葉山に還りたり。

●皇后陛下御使を賜ふ　皇后陛下には廿八日午前七時四十分頃、香川皇后太夫を伊藤邸に遣はされ、親しく負傷の御慰問あらせられたり。

●夫人と看護法　伊藤伯が負傷して官邸に歸らるゝや、伯爵夫人及び末松夫人は水中には如何なる有害物あるかを慮り、且つ創傷初期の手當最も大切なるを承知し居るゆゑ、硼酸水にて創面を洗滌し、硼酸綿紗「がーせ」を以て假繃帶を施したり、然るに伯爵は一時卒倒の病狀ありし爲め、伯爵夫人は「ポルトワイン」を飮用せしめたる等焦眉の塲合なりしも毫も手當を誤らず、橋本國手の參邸せし時は、殆んど止血に至る等、流石兩夫人とも赤十字社篤志看護婦會員として看護法等聽講し居られたるが爲め、斯る急變の塲合に際りて、負傷の手當より精神沈靜の處置を爲すに至るまで、毫も其機其法を誤らずして、大に醫師施術の助を爲したるは歎稱の外なかりき、世人も此法は常に心得居たきものなり。

●各令夫人の見舞　各省大臣の令夫人は素より、各省次官公侯伯子男爵の令夫人令孃方にも、續々首相邸に赴き病氣を見舞はれたり。

●待客日の休止　伊藤伯夫人には每火曜日午後を以て待客日と定めありたる處、今回の事の爲に非常に取込み居れば、首相が快癒せらるゝまで當分右待客日を休止したる由。

●皇太后陛下の還御　兼て神奈川縣下三浦郡葉山村へ行啓中なりし　皇太后陛下には、去る七日午前十一時三十分御旅館御發輦還御在らせらる。

●陸奧外務大臣夫人の面接日　は金曜日なりといふ。

●婚儀　大木伯の令孃は去月廿五日野州日光在見布原鄕の豪族菜氏と結婚の約調ひたりといふ。

●邦憲王殿下　には侯爵醍醐忠順氏長女好子と御結婚遊ばされたる旨去月二十六日宮內大臣より告示されたり。

●女教師二十三名　東京府高等女學校に於ては今月師範科を卒業すべき者二十三名あり。

●共立女子職業學校の卒業式　去月二十六日。

●產科往診　去る三日の官報に、左の廣告見へたり。

東京市內の產婦にして往診を請ふ者あるときは晝夜を問はず產科專門醫學博士若くは醫學士を派して診療せしむ但し治療に要したる藥品代は醫院に納付せしむることあるべしと雖も其他診察料謝儀等を要せず

明治二十五年十二月　本鄉元富士町醫科大學第一醫院

●モリス夫人歡迎會　三島彌太郎、原田助、津田元親、原富子、津田梅子等の諸氏會主となり、十一月二十三日新嘗祭をトし、品川御殿山なる原六郎氏宅に於て催されたる歡迎會には、午後二時半頃より集會せし者男女合せて五十餘名、多くは曾て米國に於て夫人を知りし人々なり、暫時懇話の後廣き庭園を散步し、後立食の饗ありて五時頃散會せり、來客中には大山伯夫人、津田仙、中島力造、柳谷謙太郎、中村榮助諸氏及夫人、矢島楫子、加藤錦子其他外國人男女十數名ありたり、因に云ふモリス夫人には、每週一回水曜日午後三時より帝國ホテルに於て婦人の爲に宗教上の談話をせらるゝ由。

●女子學院物品慈善會　同學院內自助榮恩社及び王女會の催しにかゝる同會は、去る三日午前九時より午後四時まで開會せられ三時よりは餘與の催しありたり。

●下谷正教會婦人會　同會の婦人は、每月第二日曜午後二時出會し、(當分)傳教者の講義を聽聞せらるゝ由なるが、雨天の外大抵二十名前後の來會者あり、且一昨年より會堂建築の爲に、每回八九錢づゝの積金をなし、既に二十六圓に及べりと云ふ。(裏錦)。

●大村家未亡人の書　故大村益次郎君の未亡人ことこ子には自今君の生地なる山口縣吉敷郡鑄錢司村に老後を送り居らるゝが、府下の每日新聞社は曩きに君の銅像及肖像を繍刻して、之を紙上に揭ぐると同時に、其の新聞を未亡人の許へ贈りしに、左の如く申越されたりと、同新聞に見ゆ。

拜啓亡夫益次郎銅像圖御揭載之貴新聞御寄送被降難有拜受致候先は御禮迄如斯に候草々

廿五年十一月十五日　山口縣吉敷郡鑄錢司村　大村　コト

●高等女學校卒業生を小學校教員となすの件に付某知事より普通學務局長宛

本縣高等女學校は生徒を二部に分ち一部は通常生徒とし一部は教員志願生徒とし學科課程を分ちて養成する主意に有之現今は舊尋常中學女子部の教則を假用すと雖も中學女子部規則も亦同樣の主意にて教員志願部有之小學校教員たるに適當の學科課程を設くるものに有之就ては該教員志願部を卒業せし生徒は小學校教員たるを得せしめざるべからざる次第に有之候依之該卒業生の客年御省令第十九號小學校教員撿定等に關する規則に依り准教員の撿定を出願するときは同則第七條第七欵に依り甲撿定を行ひ合格の上は准教員の免許狀を下附し差支の筋無之と存候尤も正教員の撿定を請ふときは尋常師範學校卒業生の比例も有之一箇年以上公立小學校准教員の職に在りしものにあらざれば七條七欵を適用せず一箇年以上准教員を勤務し適任の者なるときは規則第三條に依り大臣の許可を經て何分の取扱をなすべき見込に有之候右は無論差支有之間敷被存候へ共爲念及御問合候條至急何分の御回答相成度候也

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

右に對する回答

貴縣高等女學校教員志願部卒業生にして客年當省令第十九號小學校教員檢定等に關する規則に依り教員の檢定を出願する者の檢定方に關し御問合の趣了承右は同規則第七條第七欵に依り檢定するは不可然と存候尤檢定委員に於て其卒業試驗を以て檢定試驗に代ふる等の取扱をなす儀は別段差支無之と存候又右に依り正教員たらしむるには准教員の免許狀を有し一箇年以上公立小學校教員の職に在りし後に於てすべきは勿論の儀と存候此段及御回答候也

●芝居と能　顔見せや霜を踏む事女より」昔しは芝居とさへいへば、女の見るもの丶如くに思ふ程なりしが、近來は男子が先きに立ち騷ぐ樣なりしかと思へば、昔しは男子の觀るもの丶如く略ぼ定まり居りたる能樂は今春來女子の觀客次第に增加して、今は殆んど男女相半ばするの有樣となりき、又是れ審美界内近時の一現象と云ふべし。(國會)。

●東京禁酒會近情　ウエスト女史來朝以來大に活勢を加へ、去る十月中新入會員は百八十八人、府下新舊會員五百六十九人、地方會員三百四人、合計千百三十五人に達せりと、又た十二月中旬當部に於て、日本全國禁酒同盟會開設の計畫中なりと云ふ。

●東京婦人矯風會規則改正　豫て報道したる如く去る三日の總會にて、從來の規則書に數ヶ所の改正を加へたり、その改めたる規則は左の如し、

第一章　總則

第一條　本會は婦人矯風會と稱す

第二條　本會は萬國基督教婦人禁酒會と連絡を通ずるものとす

第三條　本會は自他の道德を進め教育風俗衛生其他一般の弊風を矯め禁酒禁煙の事業を擴張し以て社會全般の幸福を增進するを目的とす

誓　約

玆に上帝の祐助により和洋一切の酒類及び凡て風俗に害ある者を禁じ社會の進德を計らんがために總て適當の方法を盡さんとを誓ふものなり

第四條　會員たらんと欲する者は毎月金五錢を納め且住所氏名年齡を詳記して書記に屆くべし

第五條　毎年各自會費の中より金十錢宛てを本部に納むる者とす

第六條　男子にして本會の目的を贊助し會費として一ヶ年金一圓以上を納むる者は特別會員とす

但し投票議決の數に加らず

第七條　會員轉居又は氏名を改稱せし時は直ちに事務所に通知すべし

但し死去の節は親戚知友より直ちに報告すべし

第八條　會員退會せんと欲する時は其理由を記したる退會請求書に會員の證書を添へ事務所へ屆くべし

第二章　役員

第九條　本會に左の役員を置く

會長　　副會長
記錄書記　　通信書記
會計

第十條　會長は本會の事務を總理し副會長は會長を補佐し會長不在の時は其代理を爲すべし

第十一條　記錄書記は諸會議の記錄方及び會員名簿を管理し通信書記は一切の通信事務を掌どる

第十二條　會計は本會の財務を擔任し役員の證票を得て金錢を收支し出納計算簿を保管すべし

但し會計は會員の求めによりて何時にても帳簿を一覽せしむべけれども其手本より携帶するを許さず

第十三條　會長副會長及び會計は年會に於て公撰し書記は會長豫かじめ之が候補者を擇らび其内より公撰するものとす

第十四條　本會役員の任期は各々滿一ヶ年とす

第三章　部會

第十五條　左の六種の部類に隨がひ各々一の名稱を付すべし

傳道部　　教育部
衛生部　　風俗部
慈善部　　出版部

第十六條　部長及び部の會計書記は各部に於て之を定むるものとす

但し時勢の必要に應じ增減するとあるべし

附　則

第一條　本會の議會は本會の役員と各部長及び各部委員一名を以て組織す

第二條　集會は年會及議員會とし年會は毎年十二月六日に議員會は毎月第壹日曜日午后一時より開會する者とす

第三條　會議は議員三分の二以上出席するに非らざれば開會するを得ず

但し開場は其都度報告すべし

第四條　議事は過半數を以て決す若し可否同數なる時は議長之を決す

第五條　會長及副會長不在の時は議長を撰むべし

第六條　年會は一ヶ年の事務報告役員之更撰規則改正案を議する者とす

第七條　議員會は各部會の運動上に付打合をなし相互の便益を圖るべし

第八條　臨時會議は會員七名以上の請求と各部長の認可とに依り會長之を招集する者とす

第九條　本會の集會は聖書朗讀祈禱を以て開閉する者とす

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

第十條　本會に於て每月一回雜誌を發行し各部の景况及海外の通信を報告し本會の主義綱領を世に公にす

第十一條　本會々員には本會雜誌を無代價にて配付す

但し當分の所會費の外に郵稅として金二錢を要す

第十二條　會員にして品行不正の行爲及ひ本會の目的に反する擧動を爲す者は議員會の決議を以て退會せしむべし

第十三條　本會の收入金は本會の名義を以て銀行に預け置く者とす

●ウエスト孃の演說集　東京婦人矯風會にて、同孃が過日來東京各教會に於て爲したる演說を集めて、一部の書册となさんとの計畫につきては、今五十圓計りの金を要すれば各議員は奔走して寄附金を募集中なり。

●大坂に於けるウエスト孃　孃は去る十九日午前九時五十分梅田着の滊車にて西京より阪地に赴きぬ停車場に出迎ひたる梅花女學校生、婦人會、青年會の諸氏と共に直に今橋通りなる同孃の知己プール氏の宅に入られたり。此日午後二時より青年會館に於て特に婦人の爲め婦人矯風演說會を開き、森山夫人祈禱し、三宅婦人ウエスト孃の來歷を述べ、次でウエスト孃は梅花女學校教師增田ハル子の通譯を以て禁酒事業を大成するには万國の大聯合を要すると、日本の家庭に於て、又安息日學校に於て禁酒主義を敎ふるの注意あるべきを說かれたり。當日男子の傍聽を許さゞりしかば、來會者は婦人のみにて凡そ三百名許りなりしと。此夜午後七時より青年會館に於て歡迎會を催し、大石氏會を司り、內村鑑三氏英語を以て歡迎の辭を述べ、同孃の答辭あり、餘興として劍舞あり、それより三宅氏の通譯を以て同孃は實業と禁酒と題する演說をなせり。聽衆は千五百名もありしならん、滿堂立錐の地もなかりき。廿日も亦午後一時より同館に於て聖書と禁酒と題する演說あり、聽衆は五百名許りと覺ふ。右了りて直ちに安息日學校小兒の爲めに小兒に對する神の企圖と題する有益なる演說ありき。此夜午後七時より仝會館に於て酒井和一氏の通譯にて敎育と万國禁酒會と題する演說あり、此夜の來聽者は千人許と見受けたり。仝孃は二十一日朝十時五分梅田發の滊車にて金澤に向つて出發せり。

●ウエスト孃の死去　十一月三十日北陸よりの電報は、限り無きの哀聲を傳へり、曰くウエスト孃は死去せりと、今其詳報を聞くに、疲勞と氣候激變の爲め、既に二十四日より心地常ならず、二十五日金澤に着、出迎ひの人には、病を忍びて應對せられ、迎ひの馬車に乘ずるや、吐瀉を起し、ウイン氏宅に至り、遂に床に就かれたり、二十九日、東京にては、金澤新聞を見し處、孃が病氣の由、記したれば、驚きて早速電報を發し問合せしに、大病なりとの返信あり、依て三十日午後有志の人々多く銀坐會館に會し、祈禱會を開きたり、然るに同日の晚に至り、米國公使館へ宛て、死去の電報あり、公使は直ちに陸奥外務大臣の邸を訪ひ、其由傳へられければ、外務省よりは、遺骸引取の爲め、同省雇根本正氏を派遣するとなり、美以美教會牧師美山貫一氏も同道するとなり、二日の晚東京を出發該地に赴かれたり、又公使館にては、遺體を葬むる事につき、米國に問合せし處同國婦人禁酒會より、本國に引取る由返電ありたれば、ウエスト孃の遺骸は、多分十日か十一日、東京に來り、二十日發の米船にて、公使の令孃之に乘じて萬事を船長に賴み、懇ろに歸葬する筈なり、孃が遺骸には、注意して直ちに藥を塗り置たる由、東京にての葬式日は未定なれども、場所は麻布美以美教會なるべしといふ、愛の爲めに萬里の波濤を越へ、愛の爲めに客土に死す、吾人は過日東都に於ての孃が熱心の演說を想ひ起し、愁然として淚の胸に湧くを忍ぶ能はず、而して又孃が赤誠の如何ばかり主を喜ばしめ人を感ぜしむるかを思ふて、肅然祈禱の念を禁ずるを能はざるなり、嗟呼我が日本は必ず永久に孃が愛心を忘れざるべし。

●日本に於ける組合教會の有する女學校　は八ヶ所なりといふ。

●婦人音樂會　去月二十一日、米國總領事チロットソン氏夫人其他數名の發起にて、横濱に於て孤兒援助の慈善音樂會を開きたり。

●少女の祈禱擧坐感動す　上州西群馬郡島野村は前橋教會の傳道地なるが去五月受洗したる一少女あり、齡僅かに十五歲許なるが、受洗後間もなく重き熱病に罹り一時危篤に陷りしかば、一家親近其枕端を擁して悲歎の淚にくれたりしに、少女は微かなる聲を發して人々に云ひけるやう、己れは少間神に祈るを忘れたれば、今祈禱を爲すべきに付き、乞ふ我爲めに力を添へよと、夫れより我國に早く基督の教の傳はり、同胞の悔改めて眞誠の幸福を受るやう、或は其の村人の爲め、其親族の爲め、其朋友の爲め、其家族の爲め、縷々絲の如き音聲もて淚と共に祈り、終に、主よ聖旨にかなはゞ吾苦痛を去り玉へと云ふの外一言の私に及ぶとなく、言々句々己れの苦痛を忘れて人を愛するの衷情より湧き出る如くなりければ、集ひ合せたる人、只キリストを信ずるものは、斯くまで愛心の博く且つ厚き者にやと、そゞろに感動したりと云ふ、右の少女は幸にも其後神の恩惠によりて病氣も全快し、十數日前其快氣祝を開きし由。(基督教新聞)

●產婆講習所の開設　山梨縣病院にては、今回產婆講習會を開設することに決し、現在開業の產婆並に新たに產婆たらんとする者を募集することゝなし、其期限は一ヶ年にて、當分の內每土曜日を講習日と定め、且つ無謝儀にて傳習する由。

●感ずべき妻　山梨縣甲府新町に住める岩間某は、兩三年以前精神病に懸り種々介抱を盡すも、敢果々しく藥石の効も見えず、近頃に至りては病勢頓に加はり、己が最愛の妻を苛酷に取扱ひ、或時は見るに忍びざる程手荒の處置を爲すより、兩親は申すまでもなく、其の親類一同頻りに離緣を勸むるも、妻は之れを聞き入れず、夫が我身を慘酷に取扱ふも固と病氣の爲す處、若し一旦快愈の曉に至らば、何にとて斯る處置あるべきぞ、今見捨つるはいと安きことにはあれど、我身にして此の家を去らば我が夫は如何にして此の世に生活ふべき、それを知りつゝ此の家を去るは、我が良心の許さゞる所なりとて聞き入れず、慘酷に取扱へば取扱はるゝ程夫の病狀の重りしを知り、身飾も形ちも顧みず介抱に如才なしと、此の有樣を見る近隣の人々は勿論、今に至りては兩親々族に至るまで、其の貞操愈高きに感ぜぬものもなしと、

●女教師養成の建議　靜岡縣に於ては去る明治二十年度始めて師範學校に女子部

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

生徒を置き、二十三年度に至る迄は年々該女生徒を募集せしが、二十四、二十五の兩年度は其募集を見合せたるを以て、若し又二十六年度に於ても其募集を見合すことゝならば、現在の生徒が同年三月に卒業すると同時に、本縣尋常師範學校には女生徒の隻影を止めざるに至る可しとて、静岡縣聯合教育會は大に之を苦慮し、斯くては本縣教育上に影響する事も尠なからざればとて、去る五日の大會に於て一大問題と爲りしに、各地教育會より派遣せる委員等は孰れも女教師養成の必要なることを切論し、是非共明治二十六年度よりは頭書の通り尋常師範學校女子部生徒を募集することを縣會に於て決議されん事を建議す可しとの決議を爲し、委員を撰んで其任務を附托したるを以て、右委員栗原論、堀内正圀、絞部闘、鵜殿長道、矢島錦藏の諸氏より建議書を草し和田縣會議長に向つて之を呈出したりと云ふ。

●同志社女學校新嶋文庫　此度同校に師範文學神學の三專門科を設けるに就き第一の困難は生徒が自究の參考とすべき雜書の乏しきことなりしが、今や同校卒業生を始め生徒教員の奮發にて百圓許の金を集め、表題の文庫を設置するに至りたり、若し故總長を懷ひ、同女學校を懷ふて、金員或は圖書を寄附せらるゝ人あらんには、同校は永く其恩を記すべしとぞ。

●バックレー夫人の歸因　夫は同志社學校の哲學教授たり、婦は同志社病院の醫師たり、相扶けて主の名の爲に盡すもの多年、此度漸く日本人の已に代はるに堪ゆる者の現るゝに至りしを見、喜んで歸國の途に上らるゝに至る、歸途支那印度を經て猶太に入り、英國に留まるもの一年、其の後米國に歸着せらるゝ預定なりと云ふ、同志社生徒は之が爲に盛大なる送別會を開き、七條停車場迄見送りたり。

●辭世の歌　兵庫教會員小泉雄氏の妻八重子は、夫婦とも豫てより該教會に在つて熱心なる信仰を懷き、神の爲に多く忠實なる勸めを爲したる人なるが、八重子は過日俄然卒中症に罹り、行年六十五歳にして永眠せられたり、其辭世の歌に曰く、

月にくも花にあらしもよそならず今日はわが身の上と思へば

限りなきあまつみくにを望むればかぎりある世をなどか惜しまむ

うき樣のつかれわすれて今日こそは我ふるさとに歸る嬉しさ

●孝女　富山縣越中國上新川郡大森村孝女森井きのといへるは、同村森井長吉の女にして、嘉永六年、現在の夫森村太郎兵衞に嫁せしものなり。天性至孝、其姑に事へて孝養怠らず。其夫に對するも、亦誠に貞節にして、太郎兵衞固より不孝の心ある者にあらざれど、孝心の深き者にもあらず。然れども、きのが孝心の厚き、次第に其感染する所となり、きのと倶に母に仕へ、承歡至らざるなく、家貧しくして、所有の田地は二三反あるのみにて、而も九人の家族を糊することゆへ、其困苦は一と通りならざれど、きのは力強きものとて、男子二人前の働きをなすより、他に雇はれても、數人の賃錢を得て歸ること屢々なり。因て自己の田を耕すの外、或は他人の畑を耕し、或は堤防工事の人夫となり、終年孜々として、少しも怠らず。家計も豐になるに從ひて、一と安心と思ふ間なく、姑は病に罹りて、起居不自由となりければ、きのは、太郎兵衞と共に、醫藥看護殘る所なく、神に佛に其全癒を祈りしが、其の甲斐なくて姑は、兩眼遂に盲目となりしかば、きのの悲み一方ならず。日々姑に侍りて、好む者は直に求め、欲する者は直に供し、愛養到らざる所なく、三十年一日の如くなりしかば、一家其風に感染し、近郷其德に薫じて、遂に富山縣廳より褒賞を受るに至りしといふ。

●感心な貞婦　美作國勝北郡豐田村に住む鎌田市次郎の妻フユ(四十五年)は仝郡北吉野村生れにして、其家へ嫁せしは今より廿有餘年前なりが、元來フユは性溫順に能く婦女の道を盡し、一人の母を大切に其孝養は一方ならず、母の難病に罹り曾て歩行も自由ならざれば、其の心を慰めんとて芝居杯へ伴ひ行に自ら脊負ひて肩に掛け、母に十分氣儘を與へ大切に扱ひしに、天知る地知る、人々の感心なりと譽むる聲其筋の知る所となり、克く孝に克く家身を守り、母の看護一方ならぬと、賞金三圓に賞狀を添へ下賜せられしことさえあり、是まで賞詞或は賞狀其他木杯等は數度拜受したる事ありて、今に至るも能く夫に事へ、子供を撫育し、家事を治め、毫も貞操を變ぜぬは感心の至りにこそと同地にては褒め合へりと。

●山口縣會　同縣會にては、去月廿九日女子師範學校を廢止することに決したり。

◉三重縣通信

◎尋常師範學校女子部否決せらる　本縣知事二十六年度の豫算中に尋常師範學校女子部を縣會に要求せし處常置委員會に於ては已に之を削除せしかば縣會にても無論否決せらるゝならんと通信者が豫報せしが案の如く去る十六日の縣會にて否決されぬ當日は女子部設置贊成者の一人四十二番議員刑部千太郎氏が「今日我縣に於ては五十余万圓も賦金を出すあまたの娼妓の居るは全く我縣下女子教育に乏しき原因なり他日これら娼妓輩が母となりしならば如何にして子女を教育するぞ」と熱心に述べられしも贊成者少く結局常置委員の意見通り否決されたりアゝ我三重縣女子教育の振起せざる亦故あるかな。

◎レッナ孃　四日市町基督教講義所に働き居らるゝ米國婦人レッナ孃は轉地療養のため去る三日より凡そ二週間程神戸に滯在するよし。

◎婦人會の取調　本縣內務部にては米國世界と博覽會婦人會職業部長より依頼越したりとて米國世界大博覽會日本婦人會委員公爵毛利夫人より依頼の次第ありとて前號の赤表女學雜誌女報欄內に記載しある項目を各部市役所に通達し目下調査し居れり。

●上州通信

青柳新饒

◎岩鼻婦人積德會　去る二十三日西群馬郡岩鼻町に於て岩鼻婦人積德會を開かる前橋在留のパメリー女教師も參會せられ近來有益なる會合なりし由今其景況を聞くに午前は同會員及來賓の懇談會にて同會員更に立て其所感を述ぶる所あり或は將來の事に就き協議などを爲し午后は一時より演說會を催ふし同會の吉村テルパメリー女教師の二姉演說せられしが聽衆は凡そ百五十人にて二姉の熱心なる演說

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

終始護廳せりと云ふ。抑も該婦人積德會は三年前同地の十二三歳より十四五歳なる數名の少女の發起組成せるものにて其目的とするところは此の浮薄なる社會に立ちて女子の淑德を碎磨せんとするに在り今や吾國一般の青年會婦人會の如きは今日起て明日は仆れ朝に成て夕に廢る如き輕薄極まる風波の中に立ち而も妙齡なる少女の身を以て始終其目的を持續して屹然動かず今日に至れるは眞に殊勝なるとと云ふべし其自助の氣象感すべきにあらずや將來多望の婦人會と云ふべし。

●嶋根縣通信

◎島根縣尋常師範學校女子部全廢論　島根縣會に尋常師學校女子部全廢の議起る其理由の大躰は（第一）經濟上不得已事（第二）往々教育界に醜聞の露るゝ事（第三）卒業後社會に出ての結果豫想外なる事等なり是に就きて松江日報は非定の熱心を以て反擊せり山陰新聞は全廢論を述べ是に更ゆるに私立女子職業學校を以てすべしと論ぜり是非紛々一時甚だ賑はし而して決局採決に至り僅か一人の差にて終に存續說に決せり。

●朝鮮仁川通信

青山好惠

◎婦人傳道師　京城に於ける英米佛人等の設立に成る四箇の女學校を卒業し傳道師となりて基督教の宣傳に從事し居る朝鮮婦人十三人ありと在京城のベンカー氏より報じ來れり。

◎四箇の女學校　京城には外國人の朝鮮婦人を教育する爲め設立し居る女學校四箇あり一を梨花學堂と云ひ佛國舊教の附屬なり一を普救女館と云ひ米國プレスビテリアン教會の附屬なり一を培材學堂女學館と云ふ米國メソヂスト教會の附屬なり一を杏花學堂と云ふ英國監督教會の附屬にして何れも多きは百五十少きも四十以上の女生徒を有し學科も可なり高尚にて卒業生は往々にして學識秀でたる者多し詳細の狀況は追々報知する所あるべし。

◎コースト女史　此れ迄京城に在り英國教會の下に働かれたる英人コースト女史近々當仁川に下りて當地の教會に働かれ傍ら日本婦人を教育せん見込中の由。

◎婦人茶話會　去る十三日夜能勢領事夫人主人となり仁川港の貴婦人令孃及風紀改良熱心の紳士及青年數十名等を招待して領事館に於て婦人茶話會を催ふされ何れも淸き快樂を取りぬ當地の如き高尚の樂みなき地に在りては此れらの會は極めて有益なる慰みならん。

◎藝妓設置後の仁川　曾て通信したる通り藝妓公許後の仁川は果然淫猥の風俗益々淫猥となれり山の手の妓館絃歌絕へざる連日連夜、妓を携へて市中を漫步する腐敗紳士三々五々、醜狀殆んど見るに堪へず多情の余をして暗淚に咽ばしむるを果して幾回ぞ。

◎喜ぶべき一事　此の頃「女學雜誌」若くは「女學生」等の當地に入り込む事漸く增加し時々新著女學雜誌に關する談話をなし居る婦女子を見る、落る一葉の桐の葉以て秋の來るを知るに足るとせば此の一事其れ或は仁川港婦人の風儀改まらんとするの豫兆ならん。

●朝鮮國王妃殿下の御誕辰　去る韓曆九月廿五日は、王妃殿下の御誕辰に相當したれば、宮中に於ては例に依り賀筵を張らせられ、文武有司は召されて筵に侍し、倘ほ賤卒兵丁に至る迄多少の恩賜あり、當日午前に漢城駐劄各國公使は、例に依り內謁見祝詞を申上げたるが、獨り我が梶山公は差支あり參內せられざりし由。

●米國婦人禁酒會の第十九回大會　同會は十月廿八日より十一月二日迄、北米コロラド州デンヴアー府に開かれ、十一月一日の會議は英國のレデイヘンリイ、ソマセット夫人の司會にて撰擧會を開きたり、多數にて孰れも再撰されたり、（會頭）ミス、ウヰラード（通信書記）ミセス、ブウエル（記錄書記）ミセス、ウードブリッチ（會計）ミス、イスターボウ

●ヘンリー、ソマセット女史　は婦人矯風會の總會に出席するためウヰラード孃と相携へて合衆國に赴けり、英國に歸省するは十一月十六日の豫定なりと。

●英國に於ける婦人の蟲類學者　は只一人にしてエリノア、オルメロット孃其榮を擅へり孃は害蟲の研究幷に其の驅除法に委しきのみならず、幷せて植物の圖畫彩色及び其の摸型の製作に驚くべき才能を有せりと。

●獨逸に於ける禁酒問題　は人の注意すべきものなるべし素と獨逸人はビール等の飮料を常用として少しも之に制裁を加へず、禁酒を以て節酒の意なりと解し居れば此の國に於ける禁酒事業は甚だ困難なりき。然るに現今に至りては獨逸人も大ひに飮酒の非を悟り「ブリユー、クロス」「テンプラー」等の團躰を組織して此事業の爲めに運動し、醉狂禁制の法案を國會に提出するものあるに至れり。

●救世軍の總督ブース將軍は　其令孃マレチール、ブース夫人を以て己の後を嗣ぎて總督たるべき者と定めたり、將軍の令息ブラムウエル、ブース氏こそ此任に當るべき人なりと思ひしが將軍は却て之を夫人に讓れり、其理由として將軍が述べし所次の如し。「抑々婦人は尤も好く主治者たるものに適す、若し之を女王ウヰクトリア陛下の行ひ給ひし跡に徵せば明かならん、顧問官が屢々如何に處すべきやに惑ひし時に陛下は斷じて正しく行ひ給へり、われは此の人類を救ふの事業がわが死後にも繼續せんことを切望す故に之を人に讓る余の後には凡ての稱號わが娘の上に與へらるべきなり」と而して夫人の夫なる人も常に自らマレケールの爲す所に從ひ居る事を述べて其の適任なる事を證せり。

●婦人を以て製造事業撿查員會に名を列せしむるの可否　を論ぜしは既に昨日の事となれり。今年第六回の同會には四名の婦人を出せり、マサチユーセット州のアミス夫人は英國に於ける製造事業の撿査に付て、ベイリー夫人は同事業の觀察に付て各演述し。ペンシルバニア州の撿査は婦人を以て代表せられたり、即ち副會長たりしマク、ヘンリー夫人に公開堂件に付て、書記たりしオーレリー孃は兒女の職業に付て論文を朗讀せり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●東京婦人矯風會總會

明治二十五年十二月三日(第一土曜日)午前十時、女子學院に於て集會す、豫て同時日までに役員候補者を撰擧し置くべき筈なりしも、前以て各會員へ會葬したる會員八名記載中二名の洩ありたる爲め、追て其由を通知したる等、遂に後れて當日開會前に候補者を投票することゝなれり、

十時十分投票を開く、高點者を順次に擧ぐれば左の如し、

横井たま子(二十一) 矢嶋かぢ子(二十) 元良よね子 小嶋きよ子(十八) 櫻井ちか子(十七) 竹越たけよ(十六) 原田さき子(十六) 德富しづ子(十四) 本田さだ子(十四) 津田はつ子(十三) 渡瀨かめ子(十三) 德富ひさ子(十二) 金森小壽(十三) 阪しま子(九) 石川ます子(九) 雜賀あさ子(八)安藤ふみ子(八) 巖本かし子(九) 横井つせ子(七)中村くに子(七) 靑木まさ子(六)

十一時二十分矢嶋かぢ子氏總集會員に向て、北陸地方より來りたるウエスト孃永眠の報を告げ、涙を飮んで曰く「ウエスト孃は非常なる熱心を以て、當會の事業の爲め力を盡されたるは愛姉方の能く知らるゝ所、特に在京中は一と時も休むとなく、日夜本會の爲め心を勞せられ、爲めに其疲勞をも增させたるかと思へば、實に悲歎の至りなり、今本會設立以後第六年を經たる紀念の日に當り、神の吾等を助け給ひたる優恩を覺ゆると共に、此急報に接したる、吾等の心中堪へ難き所あるは如何ともし難し、もとより私が今日此會を主るに當りても、未だ何等の用意をもなす能はずして此に至り、今尙心はウエスト孃追慕にありて此に存せず、然ればさて久しき前より定めたる今日、且つ本愛姉にも已にかく集られたれば、此に開會す、又豫て東京婦人禁酒會へも、役員候補者數名を撰出御差送りのとを御依賴に及び置きたれば、定めて御持參に相成りたるならん」と、(禁酒會と合併したれども、同會々員の人名詳かならざれば、今回に限り各會別々に候補者を撰出する約束にてありたり)

潮田ちせ子氏起立して曰く「今も矢嶋氏より御話の通り、愛するウエスト孃は既に逝けり、其報に接してより、失望と悲歎のみ引續き、不快今日も尙常の如くならざれど、本日は大切なる日なればさ、病を冒して出席したる次第、未だ何等の事を執るとをも得ず、且つ我禁酒會々員は、未だ矯風等の事業上不案内なる處もあり、それ〳〵の關係より、本年は役員等凡て矯風會より出さるゝ事とし、禁酒會々員は、今一ヶ年間矯風會の樣子を拜見せんとを各々希望する所なり、

矢嶋氏曰く「今日私共の心中には悲みを以て充滿するとは、前にも述べたる通り潮田氏の御心中も固より察するとを得、然ればとて元來二會合併したる上は、既に一つのものにして二つには非ず、然るに今候補者を唯一方より出すのみにては甚だ不都合ならん、諸愛姉は如何に思ひ賜ふや、」集りの諸員皆「然り、然り」と贊成す、

矢嶋氏再び起て「既に會頭は會員に代りて事を執らるゝとなれば、會頭より指名せられんとを希望す」と曰ふ、集會員も皆此事を善とし、遂に右の人々を擧ぐ、

潮田ちせ子 藤田きよ子 下山小竹 市川ゑい子 廣岡とし子 美山さよ子 佐々木豐壽 緒方ふさ子

此く候補者揭示の後、紀念會を開く、

(第一)聖書朗讀、哥林多前書三章 (第二)祈禱 (第三)安藤氏より來りたる手紙朗讀 (第四)中川氏より來りたる電文朗讀、「キヂンクヮイチシクス、レキダイシ上十九、十三」(第五)役員撰擧「出席せずして人に依賴したる投票は無効と認むるとを議定す」

一 會頭 矢島かぢ子(三十點) 櫻井ちか子(一點) 元良よね子(一點) 安藤ふみ子(一點)

二 書記 (通信)美山さよ子(十六點) (記錄)靑木まさ子(十九點) 竹越竹代(十二點) 原田さき子(八點) 藤田きよ子(六點) 元良米子(六點) 佐々木豐壽(一點)

三 副會頭の數につき、或は十名、或は十五名との說出たれど遂に十名の說多數

元良米子(二十六點) 横井玉子(二十五點) 潮田千勢子(二十三點) 安藤ふみ子(二十二點) 櫻井ちか子(二十點) 渡瀨かめ子(十四點) 原田さき子(十三點) 德富久子(十一點) 津田はつ子(十二點) 佐々木豐壽(十二點)

四 會計 小嶋淸子

右投票中

第一 矢嶋氏より委員會出席の報告

第二 慈善部長阪氏より同部の會計報告

第三 德富氏欠席、矢嶋氏代りて本部會計報告

第四 矢嶋氏より今回差出したる建白書、一は在外賣淫婦取締法制定に關するものにして政府へ、今一は刑法及び民法改正の件にして、各五百餘名、此調印建白は、第三回目にして、貴族院の方へは淸浦圭吾氏、衆議院の方へは江原素六氏の紹介を以て出したる旨の報告、及び本會は禁酒を主張する者なるに、今まで主として風俗に關するとに盡力したるを以て、ウエスト孃にも驚かれたる樣子なれども、本より吾等は禁酒の大切なるとを確信するものなれば、精神上其爲めに力を盡さんとを熱望し、或は間接に、又直接に、出來得る限りは將來も尙盡す覺悟なり云々、

終りに臨んでウエスト孃の數度演說の主意とされたる聖言、哥林多前書三章十六節朗讀、次に讚美歌第百九十八番を以て閉會、會員一同晝飯を共にし暫時の後散會す。

孤兒之友

畜勸子編

●孤兒の友取次義捐金五回報告

金百九拾壹圓九拾壹錢　第四回迄寄附金高　各孤兒院へ
金五拾錢　東京無名氏　孤女學院へ寄附
金壹圓拾錢　同女學雜誌有志　同
金五錢　同有志者紙屑代　孤兒の友へ寄附
金五拾錢　横濱五少年　孤女學院へ寄附
金三圓五拾錢　山梨縣金子仙氏　同
金壹圓也　西の隅の一女生　同
金壹圓也　東京山本安治郎氏　同
金八拾四錢　同　女學雜誌社紙屑代　孤兒の友へ寄附
金五拾錢　豐後坂春治氏　孤女學院へ寄附
金六拾錢　佐賀縣大岡すま氏　同
金拾錢　北海道高橋又治氏　同
金貳拾錢　看護婦細野つき子氏　同
金八錢　東京女學雜誌紙屑代　孤兒の友へ寄附
金貳拾錢　同　淸水豊子氏　孤女學院へ寄附
金貳拾壹錢　仙台本間亮三郎　同
金拾四錢　三重縣無名氏　同
金四錢八厘　東京女學雜誌社紙屑代孤兒の友へ寄附

孤女學院別途寄附

金四圓三拾錢　横濱フエリス女學校
金貳拾圓也　同　無名氏
金五圓也　山梨縣甲府英和女學校共愛會
金貳圓拾錢　東京明治女學校愛の睦會

合計金貳百參拾參圓八拾七錢九厘

自助會第一回報告（前號の續）

內譯
金拾貳圓三拾八錢五厘　元料買入金
金三拾錢六厘　器械修繕費
金拾三圓拾壹錢七厘　職工給料
金五拾錢　取締給料

一金九拾五圓七拾五錢壹厘　四月へ越高

○第四月寄附金ノ部

一金壹圓五拾錢　前川貞五郎
一金壹圓　米人某
一金拾五圓　岐阜チヤペル氏
一金百圓　大垣磯野員爲

合計金百拾七圓五拾錢

收支計算表

一金貳百貳拾貳圓拾貳錢六厘　收入高
內譯
金九拾五圓七拾五錢壹厘　三月越金
金百拾七圓五拾錢　四月分寄附金
金拾錢　燈籠賣上代
金八圓七拾七錢五厘　職工八人分食料

一金九拾八圓六拾九錢七厘　支出高
內譯
金拾六圓六拾五錢　飯米代
金五圓貳拾錢五厘　肉類八百屋物
金壹圓拾九錢　薪炭油代
金貳拾六錢五厘　衣類洗濯代
金貳拾八錢四厘　履物代
金三圓貳拾六錢七厘　諸器具代
金五拾六錢　電信及郵便費
金貳拾三圓五拾八錢　旅費及運賃
金五拾九錢　書籍紙墨代
金三圓三拾六錢三厘　修繕費
金壹圓　藥料
金貳拾貳錢　新聞代
金四拾五錢　寫眞代
金五拾壹錢　牛乳代
金五拾錢　湯屋拂
金貳拾錢　菓子代
金貳拾五錢　親睦會費
金六拾錢　送別會費
金三拾錢　賄給料

一金三拾九圓七拾壹錢三厘　燈籠部支出金
內譯
金拾六圓三拾九錢九厘　元料買入金
金貳拾貳圓七拾五錢四厘　職工給料
金六錢　器械修繕費
金五拾錢　取締給料

一金百貳拾三圓四拾貳錢九厘　五月へ操越

○第五月寄附金ノ部

一金三圓　神戸武田貞吉
一金貳拾圓　名古屋救濟會
一金五錢　丹波多紀郡川原町　中山喜助
一金五錢　仝吳服町岩井金次郎

合計金貳拾三圓拾錢

寄附品ノ部

一コモ包衣類壹個　神戸武田貞吉取次

收支計算表

一金百五拾九圓〇五錢九厘　收入高
內譯
金百貳拾三圓四拾貳錢九厘　四月越金
金貳拾三圓拾錢　五月分寄附金
金壹圓拾錢　燈籠賣上代
金拾壹圓四拾三錢　職工食料

一金百五拾八圓九拾壹錢三厘　支出高
內譯
金三拾圓拾五錢　飯米代
金七圓八拾九錢六厘　肉類八百屋物
金壹圓五拾錢　薪炭油代
仝八錢　糸計
金拾貳錢壹厘　履物
金四圓七拾四錢六厘　諸器具
金三拾錢　電信及郵便費
金九圓九拾八錢　旅費及運賃
金貳拾五錢七厘　筆紙墨
金拾八錢　釘代
金壹圓貳拾錢　藥料

北海孤兒院移轉廣告

今般院舍落成に付左の所へ移轉仕候
北海道膽振國虻田郡虻田村洞爺湖畔

北海孤兒院

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

皇后陛下
明宮殿下 御覧濟の書

クリスマスの贈物

再版

（リツトル、ロード、フオントルロイ）

巖本善治妻譯

小公子

小供のよみ本

森田思軒居士の批評

（前略）又た若松賤子を得たり「小公子」の若きは小生竊かに推して廿年來第一の譯となす唯一と云ふに非ず第一の等列に在るべきを云ふなり「雛嫁」は驟かに之を看れば少しく「小公子」に遜るに似たり然れども之を邦語に移すに當りて「フホントロイ」と「カパフヒールド」とは其事其文兩ながら難易甚だ同じからず遽かに軒輕す可からざるなり。（早稻田文學第二拾三號）

（批評）〇十一月十五日讀賣新聞〇經濟雜誌五百九拾八號〇巖谷季雄君〇十一月十三日報知新聞〇十一月十七日中央新聞〇早稻田文學四號〇國民の友百卅八號〇十一月廿六日國民新聞〇十一月十七日中正日報〇亞細亞廿二號〇護教廿二號〇下田歌子君〇中島俊子君〇石橋忍月君〇一月十六日自由新聞。

定價金三拾八錢の所今回特別クリスマスの贈物として金廿八錢に引下候間續々購求被下度候（郵税金八錢）

發行所 東京市麹町區下六番町六番地 女學雜誌社

クリスマスの贈物

は面白き勸懲繪草紙にして第一小供にも分り易く大人にも教へとなるべき意味ある書物なれば土産遺物としては無類のものに候

定價一冊五錢
郵送料二錢

其他

木村鐙子之傳	全一冊	正價金八錢	郵税金貳錢
子供のはなし	全一冊	正價金五錢	郵税金二錢
西洋女禮	全一冊	正價金拾二錢	郵税なし
看護婦美談	全一冊	正價金二十五錢	郵税金六錢
百人一首講義	全一冊	正價金貳拾八錢	郵税金四錢
淺瀬の波	全一冊	正價金三拾錢	郵税金四錢
蓬莱曲	全一冊	正價金八錢	郵税金二錢

發賣所 東京麹町區下六番町 女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

巖本善治君編

女學叢書

木村鐙子小傳

定價金八錢
郵税金貳錢

島田三郎君の序に曰(前略)今を距る拾五六年前世人女子教育を説く者なく婦人も亦中饋の職を以て自ら劃り兒子教育の要務をも擧げて初めより之れ他人に委ぬる者比々皆是なり此時期に當りて婦人教育の要を覺り唯之を口にせずして之を躬にし自ら學び又其子を敎へて以て家道を肅するに至る是れ既に尋常婦人を以て之を見る可からさるなり特に其婦の遠方に在るに際し孤身能く衰零の家に幹するに至りては最も感ずへし余年十七八田口卯吉君と駿州の鄉校に相知り其后君と前后東京に出てゝ相往來す二人窮する甚くして學資乏絶を告ぐると屢々なり予君の居に到るに屋傾き壁破れて一見其家道の衰零を知るべし然れ共其待遇の豊厚は君の世計に過ぐるあるを覺ゆ怪みて之を他の友人に語るに亦然りといふ後に至りて其婦鐙子君が田口君の友を待つに意を致すによれるを知れり予の鐙君を親く知るは實に近年に在りと雖予鐙子君の知遇を得るは實に十年以前に在りて嘗て之を知らざりしなり田口君常に言ふ予の成立は姉の助による者多しと此言眞に然り今や田口君世に名ありて家道も亦興れり而して鐙子君は逝きぬ悲ひ哉(中略)嗚呼鐙子君の如きは之を花に比ふるに唯梅の是に當るを得へき乎(下略)

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版

百人一首講義

正價金廿八錢
郵税四錢

本書は高評なるは普く人の知る所、和歌の手引には最とも懇切にして解し易く、クリスマス、年暮、新年の贈物には、甚だ適當なりとす。

女學雜誌社出版書

西洋女禮　全

定價金拾貳錢
郵税なし

目錄

第一章　婦人紹介の事
第二章　婦人書面紹介及名刺の事
第三章　婦人訪問の事
第四章　婦人會話の事
第五章　婦人案内の事
第六章　婦人書狀の事
第七章　婦人散歩の事
第八章　婦人裝飾の事
第九章　婦人朝夕宴會の事
第十章　卓食上の心得の事
第十一章　寄遇の心得の事
第十二章　音信及贈物の心得
第十三章　主婦客を遇する事
第十四章　婚姻に關する心得

女學雜誌社出版書

兒育草　全

定價金貳拾錢
郵税なし

本書は育兒に關する一切の事を、極めて平易に、何人にも解し易き爲めに、問答躰になし第拾四回にて完結せり、世の母たる人是非一本を供へ玉へ。

東京市麹町區
下六番町六番地
女學雜誌社

贈物

歳暮
クリスマス
歳玉

孤女學院製

白、紺、木綿品
狀袋、卷紙品々

右御購求あらんことを請ふ

女學雜誌社内
孤兒の友

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

社告

歳暮 書籍呈上廣告

本年初夏女學雜誌改正いたし、新規御購讀者增加致候に付、少さか祝意と感謝を表せむが爲めに、此度左に書籍を進呈致候。

十二月廿日迄に女學雜誌前金御拂込の向へは

拾三册前金御拂込口へ つれぐ草講義。文法口授。植物學講義。木村鐙子の傳。婚姻論。の内御望の書籍一部進呈。

貳拾六册前金御拂込口へ 鈴木弘恭大人著の四版百人一首講義一部進呈。

五拾二册前金御拂込口へ 御高評を得たる若松賤子譯の再版小公子一部進呈。

右は社運隆盛の祝として、微か弊社が、年來の御愛讀に酬ひむため、詮する所ろ、世上花客多きの故に御座候、爰に謹で御愛讀諸君に謝し奉候。

東京市麹町區下六番町六番地

女學雜誌社

新發明品 **手桶湯わかしの廣告**

一個金壹圓二十錢

一家の經濟は細かき所ろに用心して、些細の事を大切にするにあり、古しへより儉約せずして家の富みたる例し曾て有らず。扨て、此の儉約を爲さんには、家の內の用事を成べく簡略にして、無用の手を省き、無用の費を惜しむにあり。儉約は、富を生ずるのみならず、勉強を生じ、人々心はげみて皆々面白くなり、一家相樂しみて春風の心地よきが如くなるものなり。一家の經濟に心を着くるは、家を富まし、家を樂しくし、家を樂園の如きホームト爲すものなり。

此主意を以て、吾社はホームを美しくするとに樣々心を碎き多年、文筆敎育の上よりして之を試ろみたれど、亦以て一家內の實際の改良を促がすとの大切なるを感じ、先づ家具を簡便にして、細君の勞を省き、臺所元の入用を少くするの方法を工夫せんとす。

扨て此度工夫したるは。手桶湯わかしなり。此は手桶の中に湯わかしを入れ、僅かの炭火にて二十分間に之を熱湯にわかすの法とす。器具は至つて簡便なるものにて手桶にても、水がめにても、盥にても、風呂にても皆な用ゆべけれど、冬向き洗濯などに使はんに、手桶に投げ込み置き、二十分にて湧きたるを一杯用ひ、更に第二の手桶に投げ入れて、又の二十分間に更に熱湯を得ば、至極重寶ならんと思ひ付き、假りに「手桶湯わかし」と名づく。

各地方にても配達運輸すべし

東京麹町區下六番町六番地 **女學雜誌社**

北海道一手賣捌 函館末廣町四十九番地 齋藤政七

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

鈴木弘恭大人著

再版 増補

文法口授 一名和文獨案内

（半紙判日本綴）

特別賣價 金拾二錢 郵便税 金二錢

目録

（一）文と云もの丶譯
（二）章句段節の譯
（三）文を作るは容易なる譯
（四）多く文を作るを善とする譯
（五）文を作る工夫の事
（六）草稿の譯弁に書方
（七）文を練磨する事
（八）文を作るに病癖ある事
（九）佳篇を作る法
（十）文を培養する法
（十一）種々の文例

東京麹町區下六番町

女學雜誌社

文部大臣子爵榎本武揚公題字
大學院醫學士三島通良先生編述

増補訂正 第三版

皇后宮御覽

はゝのつとめ

親の巻 妊婦産婦の心得 定價金三十錢（郵税二錢）
子の巻 育兒法 定價金四十錢（郵税四錢）

右は我國無双完全無比なりとの好評を博したる日本子母衞生書なり、華族女學校醫科大家産科婦人小兒科病室並に群馬縣高等小學其他の諸學校に於て參考書として用ゐらる、文章は談話體總平假名付にして極めて理解し易し。婦人方への贈物として最上の好品なり

東京下六番町

女學雜誌社

女學雜誌社出版書

子供のはなし 全

定價金五錢 郵税金貳錢

目次

第壹回 田舍音樂師
第貳回 菫の君
第三回 熊と旅人
第四四 風と日の喧嘩
第五回 ハイハイトタンイマ
第六回 カンとクッドの話
第七回 王にも勝てる人々
第八回 母の愛
第九回 柔順なる娘
第十回 英雄の所業

一書籍代金二十錢未滿は郵券代用不苦候、郵券は五厘切手一割増に限る
一雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

○白赤双方合せ購讀の分

十冊	前金	五十八錢	府外	六拾三錢
廿六冊（半年）	同	一圓四十三錢	同	一圓五十六錢
五十二冊（一年）	同	二圓六十錢	同	二圓八十六錢

○白赤の内一方購讀の分

六冊	前金	三十五錢	府外	三十八錢
十三冊（半年）	同	七十三錢	同	七十八錢
廿六冊（一年）	同	一圓三十錢	同	一圓四十三錢

一冊 金六錢 郵税金五厘

廣告料及無料廣告

一行	一回	（廿七字詰）	前金拾錢
同	三回以上		一割引
同	六回以上		二割引

○十行以上一割引。 二十行以上二割引。
○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く
○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部 注文を要し以上半頁毎に十部増と定む。

東京市麹町區下六番町六番地
發行所 女學雜誌社
編輯兼發行人 巖本善治
印刷人 堀口庄三